

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
物理学		理学療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	高野昭夫(実務経験者)
授業の概要				
物理学とはなにか解説した後、リハビリの分野で特に理解が必要となる「ちから」について講義8回進めていく。 後半は試験にむけて問題を解きながら理解度を確認していく 【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
「ちから」について理解する 「てこ」について理解する 物理分野の国家試験問題に対応できる				
回	テーマ	内 容		
1	物理学で何を学ぶか	概論		
2	力の表し方、重力	スカラーとベクトル 力の単位、力の3要素		
3	力のつり合いと作用・反作用①	重力、重心、力のつり合い		
4	力のつり合いと作用・反作用②	つり合いの2力と作用・反作用		
5	いろいろな力、 $F=ma$ 、ベクトルの足し算	重力、張力、弾性力、垂直抗力、摩擦力、浮力、揚力、アルキメデスの原理		
6	力の合成・分解①	$F=ma$ を用いた運動計算の練習		
7	力の合成・分解②	力ベクトルの合成・分解と練習		
8	てこの種類と原理①	てこの原理と種類1		
9	てこの種類と原理②	てこの原理と種類2		
10	力のモーメント	力のモーメントの練習問題		
11	力のモーメントと関節運動①	人体の関節における第1のてこ		
12	力のモーメントと関節運動②	人体の関節における第2、第3のてこ		
13	重力加速度	重力加速度の練習問題		
14	問題演習①	国家試験問題		
15	問題演習②	国家試験問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
生物学		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	永井 衛（実務経験有）
授業の概要				
生物学は生命現象を研究する自然科学であり、生物としてのヒトを理解するうえで重要な学問である。本科目では生物の最小単位である細胞から、生体内の化学反応、遺伝情報の伝達と発現、生殖と発生、生体内の調節作用、刺激の受容と行動などについて授業を進めていく。【実務経験】高校勤務				
授業終了時の到達目標				
授業各回の内容にある生命現象について理解する。 ヒトのからだで見られる生命現象を客観的に捉えることができる。 「生物学」を学ぶことで診療にかかわる広い視野を身につける。				
回	テーマ	内 容		
1	1章 生命体のつくりとはたらき(1)	細胞の構造とはたらき		
2	1章 生命体のつくりとはたらき(2)	細胞の化学成分、細胞膜の輸送、細菌とウイルス		
3	2章 生体維持のエネルギー(1)	代謝と酵素		
4	2章 生体維持のエネルギー(2)	光合成、呼吸		
5	3章 細胞の増殖と体のなりたち	【確認テスト①】 細胞分裂、減数分裂		
6	4章 遺伝情報とその伝達・発現(1)	遺伝の法則、ヒトの遺伝		
7	4章 遺伝情報とその伝達・発現(2)	DNAの構造、セントラルドグマ		
8	4章 遺伝情報とその伝達・発現(3)	ヒトゲノム、遺伝子操作		
9	5章 生殖と発生(1)	【確認テスト②】 無性・有性生殖、カエルの発生過程		
10	5章 生殖と発生(2)	ヒトの発生過程		
11	6章 個体の調節(1)	内分泌腺とホルモン、血糖量調節、体温調節		
12	6章 個体の調節(2)	腎臓・肝臓のはたらき、免疫系のはたらき		
13	6章 個体の調節(3)	【確認テスト③】 免疫と病気		
14	7章 刺激の受容と行動(1)	受容体の構造とはたらき、神経系の情報伝達		
15	7章 刺激の受容と行動(2)	興奮の伝導と伝達、筋肉の構造と収縮		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「系統看護学講座 生物学」高畑 雅一 他 著 医学書院		期末試験 確認テスト・レポート	80.0% 20.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報リテラシーⅠ（入門）		理学療法科/1年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木下僚介（実務経験あり）
授業の概要				
・講義と演習を通じて、ネット社会で情報を安全に使いこなすための基礎知識を学ぶ。 ・Word・Excel・PowerPointの基礎的な知識・操作技術を学ぶ。 ・PC操作やタッチタイピングに慣れる。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
情報化社会におけるモラルや情報管理、リスク等について説明できる。 PCの基本的な操作技術を獲得する。 Wordの基本的操作を理解し、文章やレポートを作成できる。 Excelの基本的操作を理解し、表・グラフを作成できる。 PowerPointの基本操作を理解し、資料を作成できる。				
回	テーマ	内 容		
1	情報リテラシー概論	情報リテラシーの基礎知識		
2	情報リテラシー概論	情報の取り扱いとリスク、Web上のコミュニケーション		
3	PCの基本操作	PC操作の基本、タイピング技術の向上に向けて		
4	Wordの活用	Wordの基本操作		
5	Excelの活用	Excelの基本操作		
6	レポート作成の基本	表紙、本文の作り方、引用文献の表記法		
7	レポート作成の基本	文献検索をしてみよう		
8	Power Pointの活用	Power Pointの基本操作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		確認テスト 課題・レポート	50.0% 50.0%	公文以外の理由による課題の提出期限延長は認めない。 提出できなかった場合は、その課題分の得点は0点とする。

作成者：木下僚介

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
情報リテラシーⅡ（基礎）		理学療法科／1年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	木下僚介（実務経験あり）
授業の概要				
情報リテラシーについての理解を深め、情報を適切に活用できるようになることを目指す。 そのために、実際に様々な情報に触れながら、他者と意見交換して、情報を多角的な視点から収集・分析・考察する経験を積んでいく。また、それに付随して必要な基本的なPC操作技術の習得を目指す。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・情報リテラシーに対する理解を深め、知識を説明したり、自分の考えを言語化することができる。 ・必要な資料やデータを他者と協力して適切に収集したり、活用することができる。 ・様々な情報に触れる中で、感想・疑問・意見などをもつことができる。 ・取り組んだ課題について、チームとして意見交換しながら整理し、発表することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	データの活用	データベースの操作・集計・分析（Excel）		
2	Web上のコミュニケーション	Web上のコミュニケーションの利点とリスク		
3	情報収集と分析	情報の信頼性・信ぴょう性、様々な検索方法		
4	伝わりやすい資料の作成	スライド作成（PowerPoint）		
5	プレゼンテーション①	情報の伝達（グループ発表）		
6	生成AIの活用	生成AIの活用とリスク		
7	プレゼンテーション②	情報の伝達（グループ発表）		
8	情報リテラシーを高めるために	理学療法士・作業療法士に求められる情報リテラシー		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報リテラシー入門編：FOM出版		課題提出・発表 確認テスト	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
統計学		理学療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	西潟 央(実務経験有)
授業の概要				
近年、サービスの質を評価する手法として統計学的側面からのアプローチがなされており、分析ソフトの発達などを背景として、その関心は高まりつつある。本講義においては、こうした流れと今後の方向性を踏まえた上で、統計学の基礎的知識の習得を目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・統計学の必要性について説明できる。 ・データから規則性や傾向を計算できる。 ・データから表を作成できる。 ・パソコンでデータをまとめることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	統計の基礎	統計とは何か、なぜ必要か		
2	データを見る	名義・順序・間隔・比率尺度 グラフと表		
3	データの傾向を知る 1	平均値 中央値 最頻値		
4	予測と確率	加重平均 期待値		
5	表でデータをまとめる	度数分布表 相対度数		
6	多くのデータと予測	標本調査		
7	データの傾向を知る 2	相関関係 相関係数		
8	データの傾向を知る 3	正規分布 標準偏差		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		レポート 小テスト	70.0% 30.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツビジネス論		理学療法科／4年	2025／後期	授業・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	休講
授業の概要				
スポーツ現場で活躍する理学療法士のための企業およびビジネスモデル構築のための基礎的な知識を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ現場で活躍する理学療法士のための企業およびビジネスモデル構築のための基礎的な知識を理解すること。				
回	テ ー マ	内 容		
1	起業と個人事業	起業と個人事業についての基礎知識を学習する。		
2	起業手続き	起業手続きについて学習する。		
3	資本金と資金調達	資本金と資金調達について学習する。		
4	借入れ・助成金	借入れ・助成金について学習する。		
5	経理と税務	経理と税務について学習する。		
6	ビジネスモデル	種々のビジネスモデルについて学習する。		
7	労働集約型	労働集約型ビジネスについて学習する。		
8	物販	物販ビジネスについて学習する。		
9	デジタルコンテンツ	デジタルコンテンツ販売について学習する。		
10	ブランディング	個人ブランディングについて学習する。		
11	マーケティング	マーケティングについてを学習する。		
12	デジタルマーケティング	デジタルマーケティングについて学習する。		
13	SNS	ソーシャルネットワークサービスの活用法を学習する。		
14	ウェブサイト	ウェブサイト・ランディングページの基礎知識を学習する。		
15	契約	スポーツチームやアスリートとの契約について学習する。		
図書・教材 資料配布		評価基準	評価率	その他
		レポート課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
食育学		理学療法科/1年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	鈴木敦史(実務経験者)
授業の概要				
食育とはなにか解説し、食育の現状と課題について講義する。またライフスタイルごとの食育、日本と諸外国での食文化を比較しながら講義を進めていく。 栄養についても栄養素の種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。【実務経験】レストラン勤務				
授業終了時の到達目標				
食育の現状と課題について理解する。 日本と諸外国の食文化の違いを知る。 栄養素の種類とそれらの作用を理解する。 基礎代謝量とエネルギー消費量を算出できる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	オリエンテーション エネルギーってなんだろう?カロリー、ワット、ジュールについて		
2	基礎代謝量	食事摂取エネルギー量		
3	ライフステージと食育、乳幼児と食育	乳幼児・児童期～青壮年期と食育、育会者と食育		
4	栄養素の種類と主な機能	摂取エネルギー量と消費エネルギー量の関係 六大栄養素		
5	調理実習①	清潔、まな板・包丁の使い方		
6	調理実習②	米飯とみそ汁		
7	調理実習③	サラダ		
8	調理実習④	チキン料理		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康管理学		理学療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	加藤久(実務経験あり)
授業の概要				
ヒトは食物を摂取し体内に必要な物質(栄養)を摂り入れることで生命活動を維持している。食物に含まれる栄養素の特性、栄養素の消化吸収など基礎栄養学を理解した上で傷病者の栄養管理の基礎知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・五大栄養素の働き、代謝、栄養素の消化吸収などの基礎栄養学、栄養生理学について理解する。 ・ライフステージの栄養学、特に高齢期の栄養評価の基本的な考え方を理解し、健康維持・増進のための栄養ケアマネジメントを実行できるようにする。 ・生活習慣病(糖尿病など)の基本的栄養管理を習得する。				
回	テーマ	内 容		
1	生化学・栄養学は面白い	なぜ生化学を学ぶのか、なぜ栄養学を学ぶのか リハビリテーションに活かす生化学・栄養学		
2	生化学・栄養学に必要な基礎化学	元素・元素・分子、化学結合 同化・異化		
3	五大栄養素、たんぱく質 1) たんぱく質とアミノ酸	蛋白質の分類・機能 アミノ酸の分類・機能		
4	五大栄養素、たんぱく質 2) 酵素・ホルモン	酵素の分類・作用機構 ホルモンの分類・作用機構		
5	五大栄養素、炭水化物 糖質の代謝	糖質の分類、TCAサイクル、糖新生		
6	五大栄養素、脂質 脂質の代謝	脂質の分類、脂肪酸の分類、 β 酸化		
7	五大栄養素、無機質	無機質の種類・機能		
8	五大栄養素、ビタミン	ビタミンの種類・機能 脂溶性ビタミン、水溶性ビタミン		
9	栄養生理学 消化と吸収	消化器官、消化過程、 栄養素の吸収過程		
10	運動と栄養	運動とたんぱく質代謝、運動と脂質代謝		
11	リハビリテーションと栄養	リハビリテーションと栄養の関連性 リハビリテーション栄養における多職種連携		
12	栄養評価 栄養と摂食嚥下	低栄養と過栄養、栄養アセスメント、 摂食嚥下のメカニズム		
13	主な病態の栄養管理	糖尿病の栄養管理 虚弱高齢者の栄養管理		
14	静脈・経腸栄養法	栄養ケアマネジメント 栄養療法の選択、経腸栄養法、静脈栄養法		
15	総まとめ	復習、基礎栄養学のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
リハベシク生化学・栄養学 第2版 内山靖・藤井浩美・立石雅子編 医歯薬出版株式会社		レポートなどの課題提出 期末試験	20.0% 80.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
福祉住環境コーディネーター論		理学療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	梶 直美(実務経験有)
授業の概要				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格できる知識を身に着ける 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
福祉住環境コーディネーター3級試験に合格する				
回	テーマ	内 容		
1	総論	検定試験について 学習の進め方		
2	第1章第1節	一問一答 要点 解説		
3	第1章第2節第3節	一問一答 要点 解説		
4	第2章	一問一答 要点 解説		
5	第2章	一問一答 要点 解説		
6	第3章	一問一答 要点 解説		
7	第3章	一問一答 要点 解説		
8	第4章	一問一答 要点 解説		
9	第4章	一問一答 要点 解説		
10	第5章	一問一答 要点 解説		
11	過去問	第45回 試験・解答解説		
12	過去問	第43回 試験・解答解説		
13	過去問	第42回 試験・解答解説		
14	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
15	予想問題	予想問題 試験・解答解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・福祉住環境コーディネーター3級改訂6版テキスト ・要点まとめ+よく出る問題 成美堂出版 ・副教材:過去問		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	不合格の場合は、 再試験

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学		理学療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
90分	15回	1単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働いているか見ていく。そして、自分について心理的分析してみ、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後にはメンタルヘルスについて学び、後期の臨床心理学の深い学びに繋げていく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
心理学という学問を理解する。 自己分析できる。 自己を理解し、他者との心理の違いを理解して日常生活場面での対人関係に生かせる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション			
2	心理学とは何か			
3	感じるころ			
4	見るころ			
5	学習について			
6	動機づけ			
7	考えるころ			
8	自己理解1	私とは?1		
9	自己理解2	私とは?2		
10	心理学からみた恋愛			
11	心理学からみた恋愛2			
12	対人魅力と対人関係			
13	メンタルヘルスについて1			
14	メンタルヘルスについて2			
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害福祉論		理学療法科／4年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	小島、白瀬、他（実務経験あり）
授業の概要				
本講義では、障害者福祉全般についての理解を深め、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度などの幅広い知識の習得を図る。【実務経験：病院勤務】				
授業終了時の到達目標				
「障害」の概念を理解することができる。 自らの障害観を内省し、共生社会について考えることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	概念	障害者の定義		
2	理念と展開	障害者福祉とは		
3	障害者の生活	生活実態		
4	障害者福祉の歴史			
5	法体系			
6	障害者運動	歴史と意義		
7	障害者と教育			
8	障害者と就労	雇用実態		
9	自立支援法			
10	国際	障害者の国際動向		
11	事例検討			
12	福祉の動向	我が国の福祉の動向		
13	障害者の所得保障	障害者の経済状況		
14	事例検討	自身の障害者観について		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
医学英語		理学療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央 梶 直美 他(実務経験有)
授業の概要				
主に医療場面における専門用語や会話で使用する英語を単語レベルから英語表現までを演習していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 医療現場・リハビリテーション分野で使われている英語について理解できること 2. 身体所見や検査所見の英語・略語について理解できること 3. 英語で体の状態などを質問、返答できる英語会話が理解できること 4. 中学・高校で学習した内容を復習し、英語で事項紹介できること				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	病院で使われている英語を調べる 今まで学習した英単語の復習します		
2	病院にある英語と身体部位の英語	医療現場にある英語や英語表記を考えてみます		
3	身体各部の英語	身体の各部位の英語表現を演習します 小テスト		
4	中学・高校の英語の復習	自己紹介に必要な中学・英語で学んだ英語を復習します		
5	英語で自分を紹介する	英語で自分を紹介してみます。レポート作成		
6	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 1	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
7	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 2	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
8	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 3	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
9	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 4	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
10	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 5	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
11	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 6	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
12	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語 7	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語表現を演習します		
13	理学療法・作業療法・リハビリテーション場面の英語会話 1	理学療法・作業療法・リハビリテーションに関する英語会話を学習します		
14	理学療法・作業療法・リハビリテーション場面の英語会話 2	自分が海外でケガをした時に、医師にどのように症状や望と治療を英語で説明できるかをレポート作成してみます。		
15	まとめ	レポートを返却します		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料を配布します		プレゼンテーション 小テスト レポート 出席	40.0% 10.0% 40.0% 10.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション援助技術論		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	中川、白瀬、護摩堂、竹内、木下（実務経験あり）
授 業 の 概 要				
医療現場で学生として求められるコミュニケーション・スキルについて学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
専門職としてふさわしい態度をとることができるようになる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	コミュニケーションについて	なぜコミュニケーションを学ぶのか コミュニケーションについて考えてみる		
2	社会で働くために必要な力	接遇5原則（身だしなみ、挨拶、表情、話し方、態度）		
3	自分を知る	対人援助者として自己成長に必要な自身の課題を明確にする。		
4	相手を知る	「みる」「きく」「みとめる」について考えてみよう		
5	話す技術「話題と会話、質問」	人と話をする際に必要となる「話題提供」「質問の仕方」などについて考えてみよう		
6	電話・メール・手紙	電話のかけ方、メールの書き方、手紙の書き方について学ぶ		
7	ほうれんそう、クッション言葉	実習における指導者との円滑なコミュニケーションのために考えてみよう		
8	まとめ	お礼状フィードバック・コミュニケーションGW（体験学習）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅰ（骨学）		理学療法科/1年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	竹内 佑（実務経験有）
授業の概要				
人の根本である骨の構造・関節の構造について取りあげる。 骨模型を用い、立体的に人体の構造を学ぶ。 解剖学Ⅱ（筋学）の起始・停止・作用の理解に必要な知識を習得する。 [実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・解剖学の目的、解剖学的位置、および方向と位置を示す解剖学的用語を理解する ・解剖学的用語を使って身体部位を表現する ・骨の構造や骨全体を把握するとともに、個々の骨の名称や数を正確に知る				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	総論・骨の構造		
2				
3	胸郭	胸骨・肋骨		
4				
5	上肢の骨・上肢帯	鎖骨・肩甲骨		
6				
7	上肢の骨・自由上肢骨	上腕骨・橈骨・尺骨		
8				
9	上肢の骨・自由上肢骨	手根骨・中手骨・指骨		
10				
11	中間試験	口頭試問①		
12				
13	下肢の骨	骨盤		
14				
15	下肢の骨・自由下肢骨	大腿骨・膝蓋骨		
16				
17	下肢の骨・自由下肢骨	脛骨・腓骨		
18				
19	下肢の骨・自由下肢骨	足根骨・中足骨・趾骨		
20				
21	脊柱	椎骨の基本的形態・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨		
22				
23	中間試験	口頭試問②		
24				
25	頭蓋	脳頭蓋・顔面頭蓋		
26				
27	発生	各胚葉からの分化		
28				
29	骨の連結	関節の基本構造		
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
野村 曜 他『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版』医学書院		①定期試験、口頭試問 ②授業へ取り組む姿勢（個人ワークとグループワーク） ③授業内振り返りテスト ④ミニツツペーパー	①50% ②20% ③15% ④15%	合計が60%未満の場合は、再試験を実施します。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖学Ⅱ（肢学）		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須／選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必修	山本政孝（実務経験あり）
授業の概要				
本講義では、複合触診、範囲視触、筋の描写・色塗り、骨および骨格筋の触診を通して、骨格筋の名称・起始・停止・作用・支配神経を理解することを目指す。				
授業終了時の到達目標				
・筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造と作用を選択・列記できる。 ・骨格筋の名称・起始・停止・作用・支配神経が選択・列記できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	総論	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用、骨格筋の支配神経		
2	総論	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造、骨格筋の作用、骨格筋の支配神経		
3	上肢帯の筋	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
4	上肢帯の筋	三角筋、棘上筋、棘下筋、小円筋、肩甲下筋		
5	上肢の屈筋群・上腕の伸筋群	上肢の屈筋群：上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋 上肢の伸筋群：上腕三頭筋、肘筋		
6	上肢の屈筋群・上腕の伸筋群	上肢の屈筋群：上腕二頭筋、烏口腕筋、上腕筋 上肢の伸筋群：上腕三頭筋、肘筋		
7	前腕の屈筋群	円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、深指屈筋、掌指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋		
8	前腕の屈筋群	円回内筋、橈側手根屈筋、長掌筋、尺側手根屈筋、浅指屈筋、掌指屈筋、長母指屈筋、方形回内筋		
9	前腕の伸筋群	腕伸筋群、橈側手根伸筋、短母指伸筋、両指伸筋、中指伸筋、尺側手根伸筋、肘外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋		
10	前腕の伸筋群	腕伸筋群、橈側手根伸筋、短母指伸筋、両指伸筋、中指伸筋、尺側手根伸筋、肘外筋、長母指外転筋、短母指伸筋、長母指伸筋、示指伸筋		
11	手内筋群	手内在筋		
12	手内筋群	手内在筋		
13	上肢筋のまとめ・確認テスト	上肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
14	上肢筋のまとめ・確認テスト	上肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
15	内寛骨筋群・外寛骨筋群	胸腰筋（闊背筋・大腰筋）、小腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋、内腓腸筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
16	内寛骨筋群・外寛骨筋群	胸腰筋（闊背筋・大腰筋）、小腰筋、大殿筋、中殿筋、小殿筋、大腿筋膜張筋、梨状筋、内腓腸筋、上双子筋、下双子筋、大腿方形筋		
17	大腿の伸筋群・大腿の屈筋群	大腿の伸筋群：縫工筋、大腿四頭筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋、中間広筋、後部広筋 大腿の屈筋群：大腿二頭筋、半腱筋、半膜筋		
18	大腿の伸筋群・大腿の屈筋群	大腿の伸筋群：縫工筋、大腿四頭筋、大腿直筋、外側広筋、内側広筋、中間広筋、後部広筋 大腿の屈筋群：大腿二頭筋、半腱筋、半膜筋		
19	大腿の内転筋群・下腿の伸筋群	大腿の内転筋群：恥骨筋、表内転筋、短内転筋、太内転筋、薄筋、外閉鎖筋 下腿の伸筋群：前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾延伸筋		
20	大腿の内転筋群・下腿の伸筋群	大腿の内転筋群：恥骨筋、表内転筋、短内転筋、太内転筋、薄筋、外閉鎖筋 下腿の伸筋群：前脛骨筋、長趾伸筋、第三腓骨筋、長母趾延伸筋		
21	下腿の屈筋群・腓骨筋群・足の筋	下腿三頭筋（腓腹筋・ヒラメ筋）、膝窩筋、長趾屈筋、長母趾屈筋、後脛骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋、足の筋		
22	下腿の屈筋群・腓骨筋群・足の筋	下腿三頭筋（腓腹筋・ヒラメ筋）、膝窩筋、長趾屈筋、長母趾屈筋、後脛骨筋、長腓骨筋、短腓骨筋、足の筋		
23	下肢筋のまとめ・確認テスト	下肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
24	下肢筋のまとめ・確認テスト	下肢筋のまとめ・確認テスト・フィードバック		
25	頸部の筋・顔部の筋	頸部の筋：表情筋群、咽喉筋群 顔部の筋：涙眼筋、側頭筋、舌骨筋群、涙眼筋群		
26	頸部の筋・顔部の筋	頸部の筋：表情筋群、咽喉筋群 顔部の筋：涙眼筋、側頭筋、舌骨筋群、涙眼筋群		
27	胸郭の筋・背部の筋	胸部の筋：涙眼筋群、涙眼筋群、横紋筋、前縦筋群、咽頭筋群、後脛筋群 背部の筋：浅背筋群、斜方筋群、菱形筋群、後頸下筋群		
28	胸郭の筋・背部の筋	胸部の筋：涙眼筋群、涙眼筋群、横紋筋、前縦筋群、咽頭筋群、後脛筋群 背部の筋：浅背筋群、斜方筋群、菱形筋群、後頸下筋群		
29	解剖学Ⅰのまとめ	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造と作用の復習、骨格筋の名称・起始・停止・作用・支配神経		
30	解剖学Ⅰのまとめ	筋組織の種類と特徴、骨格筋の構造と作用の復習、骨格筋の名称・起始・停止・作用・支配神経		
教科書・教材		評価基準	評価型	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第6版 医学書院		①期末試験 ②課題・確認テスト ③授業態度	50.0% 40.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
解剖学Ⅲ（内臓・脈管学）		理学療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮川 孝芳（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内部障害の病態を理解するため循環器、呼吸器、消化器、内分泌、泌尿器の構造を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
-循環系:心臓と、脳・上肢・下肢への血液供給を理解する -呼吸系:ガス交換に関わる肺と、肺生に関わる喉頭について理解する -消化系:胃、腸、肝臓、および腸下にかかる構造を理解する -泌尿系:腎臓および排泄に関わる構造を理解する -内分泌系:各内分泌系の特徴を学び、分泌されるホルモンとその生理作用を理解する				
回	テーマ	内 容		
1	総論（人体の構成）	細胞、組織（上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織）、器官の役割や特徴		
2	循環器系	血管系、心臓の位置、心臓の区分、心臓の弁、心臓壁の構成		
3	循環器系	心臓、刺激伝導系の構成、冠動脈、体循環、肺循環		
4	循環器系	上行大動脈～各種大動脈、静脈系、門脈系		
5	循環器系	リンパ系 循環器系総復習		
6	呼吸器系	鼻、咽頭、喉頭、喉頭腔		
7	呼吸器系	気管と気管支、肺		
8	呼吸器系	肺の構造の理解、胸膜と縦郭		
9	循環器・呼吸器の大復習会	各グループに分かれて知識を共有、アウトプット・インプットする		
10	循環器・呼吸器系の中間テスト解説	循環器、呼吸器の確認テスト及び解説を行う		
11	消化器系	消化器の全体像、口腔～胃		
12	消化器系	十二指腸、空腸、回腸、盲腸、結腸、直腸（小腸と大腸について）		
13	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道		
14	内分泌系	ホルモンと標的器官		
15	期末テスト対策	前期で学習した事項の復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第6版 医学書院		予習テスト 中間テスト 期末テスト	10.0% 30.0% 60.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/学期	授業形態
解剖学Ⅳ（神経学）		理学療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	16回	前位科（時間割）	必須・選択	担当教員
80分	30回	2単位（50時間）	必須	山本、竹中（実務経験有）
授業の概要				
中枢神経系の機能を理解するために、それぞれの構造や働きを講義、演習を通して学ぶ。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了後の到達目標				
1. 中枢神経系の構造と働きについて概説できる。 2. 脳の構造と働きについて概説できる。 3. 大脳皮質、大脳辺縁系、脳幹、小脳それぞれの機能と構造について説明できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	神経系概論	神経系の区分		
2	神経系の構成	神経組織、中枢神経系の構成、末梢神経系の構成		
3	脳と脳室系	脳と脳室系の構成		
4	神経系の発生	神経系、脳、末梢神経の発生		
5	脳幹	脳幹の外形と機能概		
6	脳幹	脳幹		
7	脳幹	橋		
8	脳幹	中脳、網様体		
9	小脳	小脳の外形と区分		
10	小脳	小脳の入出力と機能		
11	大脳	大脳		
12	大脳	大脳半球		
13	大脳	大脳皮質と髄質		
14	大脳	大脳皮質の機能単位		
15	大脳	大脳基底核		
16	神経路	上行性神経路①		
17	神経路	上行性神経路②		
18	神経路	下行性神経路①		
19	神経路	下行性神経路②		
20	脊髄神経	脊髄神経		
21	脊髄神経	脊髄神経		
22	脊髄神経	脊髄神経		
23	脊髄神経	脊髄神経		
24	脊髄神経	脊髄神経		
25	脊髄神経	脊髄神経		
26	脳神経	嗅神経、視神経、動眼神経		
27	脳神経	滑車神経、三叉神経、外転神経		
28	脳神経	顔面神経、内耳神経、舌咽神経		
29	脳神経	迷走神経、副神経、舌下神経		
30	自律神経	交感神経系、副交感神経系		
教科書・参考		評価基準	評価法	その他
標準理学療法学・作業療法学 解剖学第5版 医学書院 実務がみえるVol.1 脳・神経 第2版 MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生理学Ⅰ		理学療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(90時間)	必須	中丸 翔太 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象とする内科疾患(循環器、呼吸器)の病態を理解するため、講義・実習を通して機能を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
- 血液の機能を理解できる - 消化と吸収を理解できる - 循環器系の機能を理解できる - エネルギーの生成を理解(栄養と代謝) - 呼吸器系の機能を理解できる - 骨格筋の収縮メカニズムを理解する - 腎・泌尿系の機能を理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	生命現象と人体	生理学とは 細胞、器官、器官系、人体におけるエネルギー産生		
2	生命現象と人体	ヒトがヒトらしく生きられるために 体温		
3	血液(1)	血液の組成と機能 赤血球 白血球 血小板 血漿 血液型		
4	血液(2)	血液の組成と機能 赤血球 白血球 血小板 血漿 血液型		
5	細胞の構造と機能	細胞の構造と機能(細胞膜、核、細胞小器官)、静止膜電位と活動電位		
6	細胞の機能と運動生理のリンク	細胞の構造と機能の理解を深めヒトが運動するためにどのように関わっているかを理解する		
7	細胞・血液の検査	細胞や血液の機能が正常に働かない場合どんな風になってしまうのか? グループワークで確認してみよう		
8	心臓と循環(1)	心臓の働き、全身の循環経路、血液の拍出と血圧		
9	心臓と循環(2)	血圧を規定する因子と心臓の機能を理解する		
10	心臓と循環(3)	脳循環		
11	心臓と循環(4)	興奮伝導系と心電図		
12	心臓と循環(5)	興奮伝導系と心電図		
13	呼吸とガスの運搬(1)	外呼吸と内呼吸		
14	呼吸とガスの運搬(2)	呼吸運動 呼吸気量		
15	呼吸とガスの運搬(3)	ガス交換とガスの運搬		
16	呼吸とガスの運搬(4)	呼吸の調節、病的呼吸		
17	循環器・呼吸器の働きを復習	循環器・呼吸器がどのように関与しながらヒトの体を支えているのか考える グループワーク		
18	中間テスト 解説	循環器・呼吸器の復習テストを実施し、誤解度が高まっている部分の補講を行う		
19	尿の生成と排泄(1)	腎臓の構造と役割		
20	尿の生成と排泄(2)	腎臓の役割(レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の働きも含め)		
21	腎臓の大復習	腎臓の働きがヒトの体をどのように支えているのか考えるグループワーク		
22	消化と吸収	消化器の役割 嚥下と嚥下 食道における食物輸送 胃の役割と消化		
23	消化と吸収	十二指腸における消化 空腸・回腸における消化と栄養素の吸収		
24	消化と吸収	大腸の役割 肝臓の役割		
25	消化と吸収の大復習	消化と吸収の働きがヒトが運動するさいにどのように関与しているかを考える グループワーク		
26	筋と骨	筋の分類、骨格筋(骨格筋の構造、神経による骨格筋の支配、骨格筋の興奮収縮連関、骨格筋の収縮)		
27	筋と骨	骨格筋(骨格筋繊維の種類、筋肥大と萎縮、筋糖原とGlyc) 臓器系、筋電図		
28	筋と骨	心筋、平滑筋、骨、理学・作業療法との関連		
29	筋と骨の大復習	筋と骨の機能がヒトが動く時にどのように関与しているかを考える グループワーク		
30	総復習	前期授業の重要ポイントを再復習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法士・作業療法士 生理学第6版 医学書院		中間テスト	20.0%	
		授業内ポイント	20.0%	
		期末テスト	60.0%	

科目名		学科/学年	年度/学期	授業形態
生理学Ⅱ		理学療法学科/1年	2025/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
60分	30回	2単位(60時間)	必須	本丸 隆太 (資格特長あり)
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が対象となる患者様の全身に及ぶ生理的な反応を理解するため、講義・演習を通して概観を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・呼吸・循環・消化器系のつながりを理解した上で、運動生理演習を通してより官能感を高める ・神経の興奮、神経の構造から動きを学習し、神経系リハビリテーションにおける視点を築く ・内分泌系が全身の調整にどのように関わっているか説明できる				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
2	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
3	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
4	呼吸器・循環器・腎臓の復習	前期に学習したところを復習する		
5	運動生理	筋力と持久力、筋収縮のエネルギー源		
6	運動生理	運動に伴う全身の変化、トレーニングの効果、筋力の生産と加齢変化		
7	運動生理演習①	運動に伴う全身の変化を促せる		
8	運動生理演習②	運動に伴う全身の変化を促せる		
9	神経の興奮伝導と末梢神経①	神経細胞の構造、興奮の発生と伝導、筋電伝導		
10	神経の興奮伝導と末梢神経②	末梢神経の種類、神経細胞の分類、脳神経、自律神経		
11	神経の興奮伝導と末梢神経③	シナプスにおける興奮伝導、神経伝達物質の種類、神経系のリハビリテーションの紹介		
12	中枢神経系①	中枢神経系とは		
13	中枢神経系②	脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳皮質、脳の高度機能、大脳基底核、辺縁系		
14	中枢神経系③	脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳皮質、脳の高度機能、大脳基底核、辺縁系		
15	中枢神経系④	脊髄、脳幹、小脳、間脳、大脳皮質、脳の高度機能、大脳基底核、辺縁系		
16	中枢神経系⑤	中枢神経系のリハビリテーションとの関連		
17	感覚①	感覚とは		
18	感覚②	感覚と伝導路		
19	感覚③	感覚と伝導路		
20	内分泌①	内分泌機能とホルモン、ホルモンの役割、ホルモンの作用		
21	内分泌②	ホルモンの種類と作用		
22	内分泌③	ホルモンの種類と作用		
23	内分泌④	ホルモンの種類と作用、リハビリテーション		
24	栄養と代謝・細胞の構造と機能・筋と骨の復習	前期に学習したところを復習する		
25	栄養と代謝・細胞の構造と機能・筋と骨の復習	前期に学習したところを復習する		
26	栄養と代謝・細胞の構造と機能・筋と骨の復習	前期に学習したところを復習する		
27	運動生理演習③	運動に伴う全身の変化を促せる		
28	運動生理演習④	運動に伴う全身の変化を促せる		
29	後期総復習	期末テスト対策のため、後期授業の復習を行う		
30	後期総復習	期末テスト対策のため、後期授業の復習を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第6版		期末試験 課題レポート・授業点	80.0% 20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学Ⅰ		理学療法科／１年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	小島 利彦
授業の概要				
運動学Ⅰでは運動学の基本的な知識・理論の習得を目指し、運動学Ⅱでの実技や演習において応用するための基礎知識・理論を学ぶ。授業内・外で主体的に学習できるように、授業内での確認テストや体験、学生同士の意見交換などの工夫を取り入れていく。				
授業終了時の到達目標				
■筋骨格系の構造と機能および姿勢・歩行に関する基本的な知識・理論を列記・選択できる。 ■筋骨格系の構造と機能に関する知識を関節運動や姿勢・動作と関係づけることができる。 ■運動力学の基礎知識を理解し、それをもとに運動を解釈して記述できる。 ■運動学習の理論的枠組みを列記・選択できる。				
回	テーマ	内 容		
1	生体力学の基礎①	力の概念および運動学と力学の関連を知る。運動学・運動力学で「運動」をどのように表現するかを学ぶ。		
2	生体力学の基礎②	運動とエネルギー、モーメント、てこの原理について学ぶ。		
3	運動器の構造と機能①	骨・関節・筋の構造と機能について、既に解剖・生理学で学習した知識と運動との関連について学ぶ。		
4	運動器の構造と機能②	骨・関節・筋の構造と機能について、既に解剖・生理学で学習した知識と運動との関連について学ぶ。		
5	上肢の運動①	肩複合体・肘・手関節・手指の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
6	上肢の運動②	肩複合体・肘・手関節・手指の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
7	上肢の運動③	肩複合体・肘・手関節・手指の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
8	上肢の運動④	肩複合体・肘・手関節・手指の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
9	上肢の運動⑤	肩複合体・肘・手関節・手指の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
10	下肢①	股関節・膝関節・足関節・足部の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
11	下肢②	股関節・膝関節・足関節・足部の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
12	下肢③	股関節・膝関節・足関節・足部の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
13	下肢④	股関節・膝関節・足関節・足部の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
14	下肢⑤	股関節・膝関節・足関節・足部の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
15	体幹①	頭部・頸部の役割、基本的な構造と機能、関節運動の仕組みについて学ぶ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
■15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 運動学 第2版		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動学Ⅱ		理学療法科/2	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	小島 利彦(実務経験有)
授業の概要				
運動学Ⅱで学習した運動学の基本的な知識・理論を用いて実技や実習を行うことで、運動学に基づく技能や思考力・判断力を身に付ける。実習ごとに授業内でグループワークを取り入れ、主体的かつ協力的に学習できるように工夫する。検定として教科書を参照するが、学生同士の意見交換や教員からの説明および質問応答、演習・課題進行での気づき等からの学びを多く得られる授業を目指す。				
授業終了時の到達目標				
■ヒトの姿勢・動作とそれを構成する関節運動についてより深く理解し、運動学的観点から解説することができる。 ・関節域での関節運動や多関節での協調的運動、姿勢・動作、運動学の諸理論について運動学の知識で説明できる。 ・運動学実習の結果についてグループ内討論に積極的に参加し、わかりやすく発表できる。 ・運動学実習の結果を運動学の知識を用いて考察し、適切な記載方法でレポートにまとめることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	運動学実習①-1(触診・座学)	肩関節の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
2	運動学実習①-2(関節運動)	演習		
3	運動学実習②-1(触診・座学)	肘関節の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
4	運動学実習②-2(関節運動)	演習		
5	運動学実習③-1(触診・座学)	尺関節・尺腕の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
6	運動学実習③-2(関節運動)	演習		
7	運動学実習④-1(触診・座学)	肩胛骨の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
8	運動学実習④-2(関節運動)	演習		
9	運動学実習⑤-1(触診・座学)	肘関節の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
10	運動学実習⑤-2(関節運動)	演習		
11	運動学実習⑥-1(触診・座学)	手関節・手相の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
12	運動学実習⑥-2(関節運動)	演習		
13	運動学実習⑦-1(触診・座学)	有線①(屈肘筋)の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
14	運動学実習⑦-2(触診・座学)	有線②(伸肘筋)の運動(自動運動・他動運動・整形外科テスト)		
15	運動学実習⑦-3(関節運動)	演習		
16	中間発表会	運動学実習①～⑦より1グループにつき選定してパワーポイントでプレゼンテーション。		
17	運動学実習⑧-1(関節トルク)	筋力測定器(バイオデックス)を用いて、異なる関節域角度で関節トルクを計測し考察する。		
18	グループワーク	データ整理、ディスカッション		
19	運動学実習⑧-2(関節トルク)	筋力測定器(バイオデックス)測定を用いて求心性・等尺性・遠心性に特定の関節トルクを計測し考察する。		
20	グループワーク	データ整理、ディスカッション		
21	運動学実習⑨-1(姿勢制御)	重心動揺計を用いて異なる条件で測定し感覚入力と姿勢制御について学ぶ。		
22	グループワーク	データ整理、ディスカッション		
23	運動学実習⑨-2(姿勢制御)	立位アライメントと異なる条件での前庭動作を測定し、運動力学の観点から姿勢制御について学ぶ。		
24	グループワーク	データ整理、ディスカッション		
25	運動学実習⑩-1(動作分析・歩行)	撮影された動画から歩行速度が歩行パラメータに及ぼす影響を考察する。		
26	グループワーク	データ整理、ディスカッション		
27	運動学実習⑩-2(動作分析・歩行)	10m歩行を計測し歩行速度が歩行パラメータに及ぼす影響を考察する。		
28	グループワーク	データ整理、ディスカッション		
29	最終発表会	運動学実習①～⑩より1グループにつき選定してパワーポイントでプレゼンテーション。		
30	国家試験問題			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
機能解剖学的触診技術(上肢・下肢) <参考図書> 筋骨格系のキネシオロジー		レポート プレゼンテーション 期末試験	30.0% 30.0% 40.0%	<参考文献> 関節運動・姿勢制御・動作の知識を評価 <評価> レポート・プレゼンテーションで思考力・歩行速度を評価

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間発達学		理学療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	杉本和彦(実務経験有)
授業の概要				
・正常発達について ・発達心理学について ・小児疾患における運動発達の問題点について ・発達障害について 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の運動面、認知面の発達に関する知識及び生涯にわたる発達の意味を理解する				
回	テーマ	内 容		
1	発達概論・1	成長と発達に関する定義について		
2	発達概論・2	胎児の発達過程について、新生児期の循環、呼吸について		
3	発達の理論	発達の諸理論について		
4	発達のベースとなる反射・反応について・1	原始反射について		
5	発達のベースとなる反射・反応について・2	立ち直り反応、平衡反応について		
6	1歳児までの粗大運動の発達について1	首のすわりまでの発達のポイントについて		
7	1歳児までの粗大運動の発達について2	寝返りまでの発達のポイントについて		
8	1歳児までの粗大運動の発達について3	座位獲得までの発達のポイントについて		
9	1歳児までの粗大運動の発達について4	立位/歩行獲得までの発達のポイントについて		
10	1歳児以降の粗大運動/微細運動の発達について4	上肢機能、ADLの発達などについて		
11	発達心理学について	エリクソン、ユング、ピアジェなどの発達に関する理論について		
12	老年期の発達について1	老年症候群、サルコペニアについて		
13	老年期の発達について2	ロコモティブシンドローム、フレイルについて		
14	実技と演習課題	基本動作の分析と国家試験問題解説		
15	実技と演習課題	基本動作の分析と国家試験問題解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストでわかる人間発達学 上杉雅之監修 医歯薬出版		期末試験 課題・発表・出席状況	60.0% 40.0%	

作成者:田近

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学概論		理学療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	田近、他 (実務経験有)
授業の概要				
全講義15回。 病理学では生体が機能低下に陥った時の反応を学ぶ科目である。したがって生理学を理解していることが前提となる。 病理学でも各器官ごとの病態を解説していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
各器官ごとの病態を理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	総論①(先天異常、代謝障害)	病理学総論、先天異常、代謝障害		
2	総論②(進行性病変、循環障害)	進行性病変、循環障害		
3	総論③(炎症、腫瘍)	炎症、腫瘍		
4	総論④(免疫病理と感染症)	免疫病理と感染症		
5	循環障害	局所循環障害、全身性循環障害		
6	炎症	炎症細胞、炎症の分類		
7	免疫	免疫病理		
8	感染症	感染源、感染症の成立		
9	代謝障害	萎縮、蛋白変性、脂肪・糖原・色素変性		
10	老化、新生児、遺伝	老化と病気、正期生ま		
11	腫瘍	腫瘍の定義と分類、形態		
12	消化器、呼吸器	口腔・消化管、肝臓、膵臓		
13	造血器、腎臓	機能と形態		
14	内分泌、神経、運動器	機能と形態		
15	定期試験、まとめ	病理診断		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「カラーで学べる 病理学 第4版」渡辺 照男 編 ニューベルヒロカワ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床心理学		理学療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	深澤大地(実務経験者)
授業の概要				
臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。 講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げて解説を加え、注意点も合わせて説明していく。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について理解する。 カウンセリングの流れを知る。				
回	テーマ	内 容		
1	臨床心理学とは	臨床心理とは?臨床心理学総論		
2	乳幼児のころ	乳幼児期		
3	乳児期のころ	幼児期		
4	乳児期のころの問題	幼児期の心理的問題		
5	児童期のころ	児童期		
6	思春期のころ	思春期①		
7	思春期のころの問題	思春期②		
8	青年期・成人期のころ	青年期、成人期		
9	カウンセリング1	カウンセリングについて～導入～		
10	カウンセリング2	カウンセリングについて～方法～		
11	カウンセリング3	カウンセリングについて～解釈～		
12	カウンセリング4	カウンセリングについて～解釈～		
13	こどものカウンセリング	子どものカウンセリング		
14	保護者支援	保護者支援		
15	まとめ	復習とまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
整形外科学		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西潟・浅野・他(実務経験あり)
授業の概要				
整形外科の病態と治療過程について理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形外科疾患の疾患概要を説明できる。 整形外科疾患の障害像がわかる。 整形外科疾患の治療・治療法がわかる。 整形疾患と理学療法・作業療法の関連について理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	整形外科学に必要な解剖生理学	運動器解剖学		
2	整形外科的治療法	保存療法 手術療法 理学療法・作業療法との関連 外部講師		
3	骨折 1	小テスト 骨折の分類、治療過程、合併症など		
4	切断および離断	種々の疾患・病態・治療法など 外部講師		
5	骨折 2	小テスト 各骨折の特徴的徴候		
6	骨折 3	小テスト 各骨折の特徴的徴候		
7	関節・腱・靱帯における外傷性疾患	小テスト 捻挫・脱臼の概念と関節構成体の修復過程		
8	退行性疾患	変形性関節症、骨粗鬆症 外部講師		
9	末梢神経障害	小テスト 種々の疾患・病態・治療法など		
10	ハンドセラピー1	外部講師		
11	ハンドセラピー2	外部講師		
12	脊椎疾患	小テスト 椎間板ヘルニア、頸椎症、腰部脊柱管狭窄症、靱帯骨化症		
13	脊髄損傷	種々の疾患・病態・治療法など 外部講師		
14	関節リウマチ	小テスト 種々の疾患・病態・治療法など		
15	骨代謝疾患	小テスト 続発性骨粗鬆症・骨端症		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学第5版』染矢・菊地著 医学書院 『病気が見える vol.11 運動器・整形外科 第2版』医学情報科学研究所編集 メディックメディア		小テスト 期末試験	20% 80%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学Ⅰ（総論）		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	牛丸・山田 （実務経験有）
授業の概要				
内科学診断のためのアプローチや治療法について学習する。また、療法士としての必要な内科学の基本的な知識を習得することを目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾患の病態概念、治療のアウトライン等を習得する。 1. バイタルサインを正しく測定できる 2. 患者さんの訴えおよび検査から内科疾患を絞り込める 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーションを受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる 4. 病態を理解して当院用生体動点から病態を予測するなど危機管理に繋げる 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの様々な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる				
回	テーマ	内 容		
1	内科学総論	リハビリテーションとの関係 診断と治療の実際		
2	循環器疾患 1	循環器系の解剖と生理		
3	循環器疾患 2	主要な症候		
4	循環器疾患 3	冠危険因子		
5	循環器疾患 4	虚血性心疾患、心不全		
6	循環器疾患 5	大動脈疾患、末梢血管疾患		
7	循環器領域のリハビリテーション	Dr 講義の補習と心臓リハビリテーション		
8	呼吸器疾患 1	解剖と生理 主要な症候と病態生理		
9	呼吸器疾患 2	臨床で多い呼吸器疾患（COPD、肺炎、気管支喘息を中心に） 呼吸不全		
10	呼吸器疾患 3	呼吸器疾患で用いる検査とその診かた 呼吸リハビリテーション		
11	代謝性疾患	代謝性疾患とは？ 糖尿病の病態、検査、治療、リハビリテーションの実際		
12	腎・泌尿器疾患	主要な症候と病態生理		
13	消化器疾患	主要な症候と病態生理		
14	その他内科疾患 感染症	内科学で取り扱う主要な症候と病態生理		
15	内分泌疾患 テスト対策	内分泌疾患の主要な症候、病態について 期末テスト対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
内科学Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	塚田・中川・牛丸（実務経験あり）
授業の概要				
内科学Ⅰで学んだ基礎知識をもとに、循環器・呼吸器・泌尿器・血液・代謝疾患の各論について理解を深める。 療法士として必要な内科学の応用的な知識の習得を目標とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科学に関する基本的知識、各種疾病の病態概念、治療のアウトライン等を得る。 1. バイタルサインを正しく測定できる。 2. 患者さんの訴えおよび症候から内科疾患を絞り込める。 3. 内科学の全領域を学習し、リハビリテーション治療を受ける患者さんの基礎疾患の病態を理解できる。 4. 感染症を理解して公衆衛生学観点から感染を予防するなど危機管理に努める。 5. 内科学の基本的知識をもって患者さんの微小な病態変化を迅速に察知し、最適な対応がとれる。				
回	テーマ	内 容		
1	内科学とは 診断と治療の実践	内科学の概念、診断から治療のプロセス		
2	症候学 1	発熱 全身倦怠感 食欲不振 悪心・嘔吐 易感染性		
3	症候学 2	意識障害 めまい 浮腫・むくみ 頭痛 リンパ節腫脹 ショック		
4	循環器疾患 1	症候 診断 各論		
5	循環器疾患 2	心臓・代謝性疾患・腎臓リハビリテーションについて		
6	呼吸器疾患 1	症候 診断 各論		
7	呼吸器疾患 2	呼吸リハビリテーション		
8	血液・造血器疾患	生理 症候 検査 各論		
9	代謝性疾患	仕組み 各論		
10	腎・泌尿器疾患	解剖・生理 検査 各論		
11	褥瘡 1	創傷 栄養		
12	褥瘡 2	創傷 栄養		
13	感染症1	感染症総論		
14	感染症2	感染症各論		
15	内科疾患のリハビリテーション	内科学講義の復習とリハビリテーションについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 内科学 第4版 配布資料		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅰ（総論）		理学療法科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	竹中 誠（実務経験有）
授業の概要				
神経疾患による障害に対して理学療法や作業療法を行うためには、これらの疾患に関する十分な知識をもつことと、これら疾患の患者の中で多数を占める高齢者の精神身体面の特徴、ことに加齢に伴う内科疾患などの合併症について十分な知識が必要である。本科目では各論を学ぶ上で必要となる神経症候学についての基礎知識を習得することを目的とする。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経学的診断や症候について評価する上で必要となる知識を習得する				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション・導入	神経内科学について、頭蓋内病変の画像		
2	神経内科疾患	脳血管疾患①：脳梗塞		
3	神経内科疾患	脳血管疾患②：脳内出血、くも膜下出血		
4	神経内科疾患	認知症		
5	神経内科疾患	脳腫瘍		
6	神経内科疾患	外傷性脳損傷		
7	神経内科疾患	脊髄疾患		
8	神経内科疾患	変性疾患①		
9	神経内科疾患	変性疾患②		
10	神経内科疾患	末梢神経障害		
11	神経内科疾患	てんかん		
12	神経内科疾患	筋疾患		
13	神経内科疾患	感染性疾患		
14	神経内科疾患	中毒性疾患、栄養欠乏による神経疾患		
15	神経内科疾患	小児神経疾患		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版 改訂第2版 神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
神経内科学Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	竹中誠（実務経験あり）
授業の概要				
神経内科学とは、中枢・末梢神経系および筋肉の内科的疾患を対象とする臨床医学である。リハビリテーションの対象は、神経筋骨格系に生ずる身体障害であるが、最近では認知を含む高次脳機能障害や障害者の心理社会的側面も対象領域となってきた。特に後者は、専門性が高く、将来飛躍的に需要が伸びる分野であろうと思われる。本講義は神経内科学総論であり、関連疾患の臨床症状や診断法について述べる。学習目的は関連用語の修得とリハビリテーション医学に於ける障害分析能力の育成である。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・神経症候学の基礎を理解し、障害の理解が図れる。 ・神経症候を呈する病態・臨床症状・診断・治療を疾患区分ごとに理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション 導入	神経学的診断と評価と神経学的検査法		
2	神経診断1	意識障害・髄膜刺激症状		
3	神経診断2	脳神経①		
4	神経診断3	脳神経②		
5	神経診断4	運動麻痺、錐体路兆候、筋萎縮		
6	神経診断5	筋力低下、錐体外路兆候、不随意運動		
7	神経診断6	反射、運動失調		
8	神経診断7	感覚・歩行		
9	神経診断8	高次脳機能障害①		
10	神経診断9	高次脳機能障害②		
11	神経診断10	高次脳機能障害③		
12	神経診断11	嚥下障害		
13	まとめ	廃用誤用過用、合併症		
14	まとめ	運動学習理論		
15	まとめ	脳卒中リハビリテーション		
4書・教材		評価基準	評価率	その他
神経診察クローズアップ-正しい病巣診断のコツ 第3版 標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 第5版		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神医学		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	木下僚介（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士や作業療法士が臨床の場で必要とされる精神症状や精神疾患、また精神疾患を有する患者の理解・対応に必要な基本的知識を学ぶ。 [実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・精神医療の歴史や精神保健福祉にかかわる制度や現代のメンタルヘルスに関する諸問題について理解したり、考えることができる。 ・主要な精神症状や精神疾患の成因・病態・治療法などについて説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	総論①	精神医学とは、精神医療の歴史		
2	総論②	精神障害の成因と分類、診断と評価		
3	精神症状①	精神機能の障害と精神症状		
4	精神症状②	精神機能の障害と精神症状		
5	器質性精神障害	認知症		
6	精神作用物質による精神および行動の障害	アルコール依存、薬物依存		
7	統合失調症	統合失調症		
8	統合失調症	統合失調症		
9	気分（感情）障害	うつ病、双極性障害		
10	神経症性障害	不安障害、強迫性障害、PTSDなど		
11	生理的障害および身体的要因に関連した障害	摂食障害、睡眠障害		
12	成人のパーソナリティおよび行動の障害	パーソナリティ障害、行動の障害		
13	ライフサイクルにおける精神医学	各時期における心理特性とメンタルヘルス		
14	精神障害の治療	薬物療法、精神療法、リハビリテーション		
15	精神保健医療の現状と課題	精神保健福祉法、医療観察法 精神疾患やメンタルヘルスの諸問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
上野武治(編)：標準理学療法学・作業療法学、精神医学第4版増補版、医学書院、2021。		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
小児科学		理学療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	新谷尚久(実務経験あり)
授業の概要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
小児の発達について理解し、発達の評価ポイントを理解し、説明できる。 小児で代表的な疾患や臨床症状について理解し、説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	小児科学概論 診断と治療の概要	小児科の特徴、成長と発達、栄養と接触、保健 診断と検査、治療法		
2	新生児・未熟児疾患	胎児期、周産期、新生児期、新生児の評価と問題、早産児 の神経学的所見、新生児・周産期異常、疾患		
3	先天異常と遺伝病	遺伝と病気、染色体異常、先天奇形、先天代謝異常症		
4	神経・筋・骨系疾患	中枢神経疾患、てんかん、発達遅滞を伴う疾患、発達障 害、脊髄性疾患、筋疾患、骨・関節疾患		
5	循環器疾患	心血管系の発生と対外環境、症状と検査、発症頻度と原 因、先天性心疾患、後天性心疾患		
6	呼吸器疾患	発生と機能、症状と検査、治療と処置、代表的呼吸器疾患		
7	感染症	症状、診断と治療、各年代での代表的感染症		
8	消化器疾患	消化器の発生、機能的発達と症状、代表的消化器疾患、		
9	内分泌・代謝疾患	内分泌疾患、糖代謝異常		
10	血液疾患	造血組織の発生、血液の成分、赤血球系の異常、白血球系 の異常、出血性・血栓性疾患		
11	免疫・アレルギー疾患、膠原病	免疫、アレルギー、自己免疫疾患、膠原病		
12	腎・泌尿器系、生殖器疾患	腎・泌尿器系疾患、生殖器疾患		
13	腫瘍性疾患	悪性腫瘍の発生頻度、神経芽腫、網膜芽腫		
14	習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾 患・虐待	習癖、睡眠関連病態、心身医学的疾患、児童虐待		
15	重症心身障害児 眼科・耳鼻科の疾患	重症心身障害児の定義および発達、療育の体制 眼科、耳鼻科		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準理学療法学・作業療法学「小児科学」 第6版：富田豊編集：医学書院		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床医療学(栄養・医用画像・薬理学・救命救急)		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	牛丸翔太 (実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士・作業療法士の臨床実習や就職後において必要な栄養学の知識、脳や運動器のMRI・CT・レントゲン画像の読影、救急救命について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・内科疾患におけるリスク管理、栄養指導がわかる。 ・脳画像や運動器画像の正常画像の読影ができる。異常所見により予後を予測する。 ・患者に処方された薬の効用、副作用、リスク管理を理解する。 ・救急時の対応について理解する(AED含む)。				
回	テーマ	内 容		
1	正常画像所見 1	X-P、MRI、CTの画像の読影(運動器)		
2	正常画像所見 2	X-P、MRI、CTの画像の読影(循環器・呼吸器)		
3	疾患別画像所見 1	運動器疾患(骨折、筋・靱帯断裂)		
4	正常画像所見 3	MRI、CTの画像の読影(脳)		
5	疾患別画像所見 2	脳血管疾患		
6	正常画像所見 4	エコーの画像の読影		
7	救急救命 1	AEDについて 一次救命処置		
8	救急救命 2	一次救命後の対応		
9	薬理学 1	リスク管理に必要な薬剤の知識 1		
10	薬理学 2	リスク管理に必要な薬剤の知識 2		
11	薬理学 3	リスク管理に必要な薬剤の知識 3		
12	薬理学 4	リスク管理に必要な薬剤の知識 4		
13	肝臓病の臨床栄養学			
14	腎臓病の臨床栄養学			
15	虚血性心疾患における臨床栄養学			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
特定の教科書は使用せず		期末試験 課題	80.0% 20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション概論		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	護摩堂秀之助 （実務経験あり）
授業の概要				
自己学習とグループワークを中心としたアクティブラーニングを通して、医療職に必要な心構え・学習態度を身につけるとともに、リハビリテーションについての基礎的な知識や考え方を学ぶ授業となる。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
知識：リハビリテーションの概念、定義を理解する リハビリテーションに必要な専門基礎学問を理解する 技術：自己学習やグループワークを通して医療職としての学び方を習得する 態度：専門職として必要な基本的態度、習慣について自らの行動規範を持ち、行動できる				
回	テーマ	内 容		
1	リハビリテーションとは何か	リハビリテーションの語源		
2	リハビリテーションの歴史	障害者の復権、ノーマライゼーション、自立生活運動		
3	障害の捉え方	ICIDHからICFへ		
4	事例検討	事例を通して考えるリハビリテーション		
5	障害受容	ヒトが病気や障がいを持ったとき		
6	障害者体験	障害者の視点を感じよう		
7	チーム医療	チーム医療の重要性と他職種連携の基本		
8	リハビリテーション専門職の役割	理学療法士・作業療法士、その他の職種の役割		
9	生活とその人らしさ	ADLとQOL		
10	リハビリテーション関連法規	医療法、福祉六法、障害者総合支援法など		
11	リハビリテーション工学	自助具、福祉用具		
12	栄養とリハビリテーション	栄養、摂食嚥下障害		
13	回復段階によるリハビリテーション	急性期・回復期・生活期		
14	キャリア形成	ジョブカード活用		
15	リハビリテーション再考	まとめと振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川手信行：リハビリテーション概論のいろは資料配布		期末試験 課題・レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
公衆衛生学		理学療法科／4年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中山吉宣（実務経験有）
授業の概要				
人々の基本的な生活と人間のあり方、健康と公衆衛生、健康指標と予防、生活環境の保全について学習する。【実務経験】保健所勤務（獣医師）				
授業終了時の到達目標				
理学療法士・作業療法士として、障害に対するリハビリテーションの担い手となるだけでなく、人が生きる全体像をとらえる視点を持ち、予防の概念に基づき、健康増進へ貢献できる医療人となる。				
回	テーマ	内 容		
1	公衆衛生と健康の概念	公衆衛生と健康の概念		
2	疫学	疫学指標の算出、疫学研究と倫理		
3	保健統計	人口動態統計（出生、死産、婚姻、離婚、死亡、死因分類、）		
4	医の倫理と患者の人権	医の倫理と患者の人権		
5	終末期医療と死の概念	終末期医療と死の概念		
6	医療法と医療体制	医療法と医療体制		
7	社会保障と医療経済	社会保障と医療経済		
8	成人保健と健康増進	成人保健の現状と生活習慣病、リスク因子、予防対策		
9	母子保健	親子保健対策、関連法規、		
10	高齢者保健	高齢者と介護保険		
11	障害者福祉、精神保健福祉	精神保健の実際、健康関連行動		
12	感染症対策	感染症の流行状況、主たる感染症、感染症対策、検疫		
13	食品保健と栄養	食生活、食行動、食環境、身体活動と運動		
14	学校保健、産業保健	学校保健、産業保健		
15	環境保健、国際保健	環境衛生（生態系、地球希望の環境、公害、廃校、廃棄物処理、放射線）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
公衆衛生がみえる：MEDIC MEDIA		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会保障論（含む地域包括ケア・自立支援）		理学療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（時間）	必須	小島、白瀬（実務経験あり）
授業の概要				
国民生活を生涯にわたって支える社会保障制度について知識を得る。 自らの専門職と社会保障制度の関連を知る。				
授業終了時の到達目標				
社会保障制度と関連のある省庁からの情報を得ることができるようになり、将来に役立つ能力を身に付ける。				
回	テーマ	内 容		
1	社会保障の現状	憲法第25条		
2	社会保障の概念・理念	地域包括ケア		
3	社会保障と財政	総合支援法		
4	社会保障と社会扶助	介護保険制度		
5	公的保険と民間保険			
6	社会保険制度の体系			
7	諸外国における社会保障制度			
8	社会保障の課題と展望			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		レポート 小テスト	80.0% 20.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
多職種連携		理学療法科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	西潟 央（実務経験あり）
授業の概要				
医療および地域リハビリテーションに関わる様々な職種との連携について学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・地域包括ケアシステムについて理解する。 ・医療における他職種連携について理解する。 ・介護保険下での多職種連携について理解する。 ・認知症の方をサポートできる				
	テーマ	内 容		
1	地域包括ケアシステムについて 認知症を考える	認知症サポーター養成講座		
2	地域ケア会議について			
3	ケアマネージャーについて			
4	MSWについて			
5	医療・介護・地域との連携について 考える	グループワーク		
6	医療・介護・地域との連携について 考える	グループワーク		
7	医療・介護・地域との連携について 考える	グループ発表		
8	医療・介護・地域との連携について 考える	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		グループワーク、プレゼンテーション	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ医学		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小林謙太（実務経験者）
授業の概要				
スポーツで起こる様々な医学的問題や疾病を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ医学の基礎的な知識を理解し、種々の分野の医学書を読むことができるようになる。				
回	テーマ	内 容		
1	スポーツ医学の役割	スポーツ医学が取り扱う範囲を学習する。		
2	呼吸器	スポーツ選手に起こる呼吸器疾患を学習する。		
3	循環器	スポーツ選手に起こる循環器疾患を学習する。		
4	消化器	スポーツ選手に起こる消化器疾患を学習する。		
5	泌尿器	スポーツ選手に起こる泌尿器疾患を学習する。		
6	眼科	スポーツ選手に起こる眼科疾患を学習する。		
7	歯科	スポーツ選手に起こる歯科疾患を学習する。		
8	耳鼻咽喉科	スポーツ選手に起こる耳鼻咽喉科疾患を学習する。		
9	婦人科	スポーツ選手に起こる婦人科疾患を学習する。		
10	小児科	若年スポーツ選手に起こる小児科疾患を学習する。		
11	皮膚科	スポーツ選手に起こる皮膚科疾患を学習する。		
12	免疫と感染症	スポーツ選手に起こる免疫不全疾患・感染症を学習する。		
13	脳神経科	スポーツ選手に起こる脳神経科疾患・脳損傷・脊髄損傷を学習する。		
14	救急医学	スポーツ現場で必要な救急医学の知識を学習する。		
15	栄養学	スポーツ栄養学の基礎を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		小テスト	50.0%	
		レポート	50.0%	

		学科／学年	年度／時期	授業形態
バイオメカニクス		理学療法科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	選択	小島利彦（実務経験有）
授業の概要				
バイオメカニクスの基礎からスポーツ場面への応用について、講義・実技・ケーススタディ・グループディスカッションを通して学び、スポーツ場面で活用できる知識・技術を学ぶ。 【実務経験】病院実務経験				
授業終了時の到達目標				
バイオメカニクスの基礎を理解し、スポーツ場面での応用について考察できる ・バイオメカニクスの基礎（重心、速度、加速度、床反力・筋活動）の変化を説明できる ・スポーツ動作をバイオメカニクスの観点で理解し、説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	バイオメカニクス総論	授業概要・バイオメカニクスの基礎について学ぶ		
2	生体におけるテコ	テコの考え方を理解し生体への応用を学ぶ		
3	重心の求め方	重心の考え方を理解し、姿勢によって身体重心位置が変化することを学ぶ		
4	重心の速度・加速度	重心の速度や加速度について学び、立ち座りの際の重心の速度・加速度のグラフが描ける		
5	床反力作用点（COP）とは何か	COPの意味、BOS・重心位置との関係について学び、重心・床反力・COPを立位、座位、リーチ動作に即して考える。		
6	床反力と重心加速度	力と重心の加速度の関係、身体に加わる床反力について理解し、スクワット時の床反力と重心の動きの関係を学ぶ。		
7	関節モーメントと筋活動	関節モーメントとその計算方法について学び、関節モーメントと床反力の関係が説明できる。		
8	関節モーメントとパワー	関節モーメントの意味や力学的仕事、筋のなす仕事、筋が発生するパワー、パワーと筋収縮様式との関係を学ぶ。		
9	ジャンプ動作	筋の仕事と跳躍高、跳躍時の床反力と重心加速度、関節モーメント、パワーについて学び、高く跳ぶためにはどうしたらいいか考える。		
10	立ち上がりのバイオメカニクス	立ち上がりの重心移動、BOSの変化、COP、床反力の変化、筋活動について学ぶ。		
11	歩きはじめのバイオメカニクス	直立時の重心とCOPの位置、歩きはじめのCOPの動き、重心との関係、関節モーメントの関係を理解し重心を前進させる原動力を学ぶ。		
12	歩行のバイオメカニクス1 -重心と床反力作用点-	歩行中の重心とCOP、関節モーメントの関係を学ぶ。		
13	歩行のバイオメカニクス2 -重心の動きを滑らかにする機能-	歩行中の重心移動を滑らかにする機能、衝撃吸収についてロッカー機能を中心に学ぶ。		
14	演習・まとめ（スポーツへの応用）	まとめ・発表		
15	演習・まとめ（スポーツへの応用）	まとめ・発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト ・スポーツ理学療法学 ・運動学 *補足資料として使用 授業資料を中心に説明する		授業内課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ生理学		理学療法科/2年	2025/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	兼八勇治(実務経験有)
授業の概要				
運動生理学・病理学について学び、運動処方と測定機器を用いた演習を行う。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
運動の生理学的メカニズムを理解する。 運動機能評価ができるようになる。 効果的な運動処方ができるようになる。				
回	テーマ	内 容		
1	筋力発揮と筋力増強のメカニズム	神経因子による要素から筋肥大を伴う筋力増強のメカニズムについて学習する。		
2	筋力トレーニング種別と効果について	各種トレーニング方法と効果の違いについて学習する。		
3	リカバリーの科学的基礎	睡眠、軽運動、ストレッチング、温熱、冷却、マッサージなどを通してリカバリーの手段について学習する。		
4	水分摂取、栄養摂取	運動前、運動中、運動後の水分摂取や三大栄養素、アミノ酸、HMBなどについて学習する。		
5	各種テストとモニタリング①	スピード、パワー、持久力等の評価方法について学習する。		
6	各種テストとモニタリング②	スピード、パワー、持久力等の評価方法について学習する。		
7	エネルギー代謝と呼吸ガス分析	エネルギー供給系の理論について学習する。		
8	CPX演習①	呼吸ガス分析装置を使った評価方法、注意点について学習する。		
9	CPX演習②	呼吸ガス分析装置を使った評価方法、注意点について学習する。		
10	CPXデータに基づく評価と運動処方	各種パラメーターの解釈できることを目標とし、運動処方について学習する。		
11	インターバルトレーニングの理論と実際①	インターバルトレーニングの種類、基本的な考え方、一般的なアウトカムについて学習する。		
12	インターバルトレーニングの理論と実際②	インターバルトレーニングの実際について学習する。		
13	インターバルトレーニングの理論と実際③	インターバルトレーニングを用いた運動処方について学習する。		
14	ストレッチと運動パフォーマンス	Stretch-Shortening Cycleによるパフォーマンス増強とメカニズムについて学習する。		
15	ストレッチとトレーニングの応用	SSCによるメカニズムを理解した上で、トレーニング理論を学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
アスレティックパフォーマンス向上のためのトレーニングとリカバリーの科学的基礎		レポート作成	100.0%	

専門分野	学年				1年		2年		3年		4年	
	科目名		単位数		前期		後期		前期		後期	
			必修	選択	時間	単位	時間	単位	時間	単位	時間	単位
基礎理学療法	理学療法概論	○	1		30	1						
	研究法Ⅰ(抄録)	○	1					30	1			
	研究法Ⅱ(方法)	○	1						30	1		
	臨床運動学	○	1							30	1	
	言語聴覚療法概論	○	1						30	1		
	作業療法概論	○	1					15	1			
	必修科目小計		6	0	30	1	0	0	45	2	30	1
	選択科目小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	必修科目小計		6	0	30	1	0	0	45	2	30	1
	選択科目小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学療法	理学療法管理Ⅰ(臨床倫理・施設管理)	○	1						30	1		
	理学療法管理Ⅱ(保険制度)	○	1							30	1	
	必修科目小計		2	0	0	0	0	0	30	1	30	1
	選択科目小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学療法	評価測定Ⅰ(総論)	○	1		30	1						
	評価測定Ⅱ(基礎)	○	1				30	1				
	評価測定Ⅲ(応用・臨床評価)	○	2					60	2			
	評価測定Ⅳ(総合)	○	2						60	2		
	スポーツ外傷評価学	○	0	1					30	1		
	必修科目小計		6	0	30	1	30	1	60	2	60	2
	選択科目小計		0	1	0	0	0	0	0	0	30	1
	必修科目小計		6	0	30	1	30	1	60	2	60	2
	選択科目小計		0	1	0	0	0	0	0	0	30	1
	必修科目小計		6	0	30	1	30	1	60	2	60	2
理学療法治療学	運動療法Ⅰ(基礎)	○	2					60	2			
	運動療法Ⅱ(応用)	○	2						60	2		
	物理療法Ⅰ	○	1			30	1					
	物理療法Ⅱ	○	1					30	1			
	造形学	○	1						30	1		
	装具学	○	1					30	1			
	日常生活活動Ⅰ(総論)	○	1		30	1						
	日常生活活動Ⅱ(各論)	○	1						30	1		
	理学療法治療学Ⅰ-1(整形外科)	○	2							60	2	
	理学療法治療学Ⅰ-2(神経)	○	2							60	2	
	理学療法治療学Ⅰ-3(小児)	○	1							30	1	
	理学療法治療学Ⅰ-4(内科)	○	2							60	2	
	理学療法治療学Ⅱ-1(整形外科)	○	2								60	2
	理学療法治療学Ⅱ-2(神経)	○	2								60	2
	理学療法治療学Ⅱ-3(小児)	○	1								30	1
	理学療法治療学Ⅱ-4(内科)	○	1								30	1
	超音波エコーと精密診断	○	1						30	1		
	スポーツ救急法	○	1					30	1			
	スポーツ外傷学概論	○	1					30	1			
	スポーツ外傷治療学	○	1							30	1	
	テーピング・装具学実技	○	1							30	1	
	アスレティックリハビリテーションⅠ	○	1							30	1	
	アスレティックリハビリテーションⅡ	○	1								30	1
	スポーツ理学療法学	○	1						30	1		
	理学療法治療計画法	○	1						30	1		
	理学療法演習Ⅰ(基礎別基礎)	○	2							60	2	
	理学療法演習Ⅱ(応用別応用)	○	2								60	2
	必修科目小計		30	0	30	1	30	1	120	4	180	6
	選択科目小計		0	7	0	0	0	0	60	2	20	1
地域理学療法	地域理学療法Ⅰ(総論)	○	1			30	1					
	地域理学療法Ⅱ(各論)	○	2					60	2			
	必修科目小計		3	0	0	0	30	1	60	2	0	0
	選択科目小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床実習	臨床見学実習Ⅰ	○	1		40	1						
	臨床見学実習Ⅱ	○	1				40	1				
	地域理学療法実習	○	1								40	1
	臨床実習Ⅰ	○	4							180	4	
	臨床実習Ⅱ	○	8							320	8	
	臨床実習Ⅲ	○	8								320	8
	必修科目小計		23	0	40	1	0	0	40	1	0	0
	選択科目小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	必修科目小計		23	0	40	1	0	0	40	1	0	0
	選択科目小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学療法必修科目単位・時間合計			20	0	130	4	90	3	325	11	360	12
理学療法選択科目単位・時間合計			0	7	0	0	0	0	60	2	20	1
共通科目必修科目単位・時間合計			55	0	275	14	420	15	180	6	135	5
共通科目選択科目単位・時間合計			0	2	0	0	0	0	30	1	0	0
理学療法必修科目単位・時間合計			125	0	505	18	510	18	505	18	360	12
理学療法選択科目単位・時間合計			0	10	0	0	0	0	90	3	20	1
必修科目合計			125	0	505	18	510	18	505	18	360	12
選択科目合計			0	10	0	0	0	0	90	3	20	1
必修・選択科目合計			125	10	505	18	510	18	595	21	380	13

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法概論		理学療法科/1年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	宮川幸芳(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法士になるための学習プロセス、卒業後のキャリアや職域を知り、少子高齢化社会の中における課題について理学療法士はなにを考えていくべきかを学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・理学療法士の職域や職能が理解できること ・自分の考えを他者に伝え、他者の考えを聴き、自分に新しい気づきを受け入れられること ・自分の考えを決められた時間内にまとめ、レポートできること				
回	テーマ	内 容		
1	理学療法士を目指す理由 1	オリエンテーション 理学療法士を目指した理由 グループワーク		
2	理学療法士を目指す理由 2	自分の強みと弱み グループワーク		
3	病期という考え	急性期・回復期・生活期・終末期		
4	予防という考え	健康寿命 メタボリックシンドローム ロコモティブシンドローム 確認テスト		
5	リスクという考え	感染症 インシデント・アクシデント 確認テスト		
6	地域を考える 1	理学療法で地域は元気にできるのか？ 確認テスト		
7	地域を考える 2	理学療法で地域は元気にできるのか？		
8	理学療法士とキャリア 1	教員から新入生へのメッセージ		
9	理学療法士とキャリア 2	教員から新入生へのメッセージ		
10	理学療法士とキャリア 3	教員から新入生へのメッセージ		
11	理学療法士とキャリア 4	教員から新入生へのメッセージ		
12	理学療法士とキャリア 5	教員から新入生へのメッセージ		
13	理学療法士とキャリア 6	教員から新入生へのメッセージ		
14	理学療法士とキャリア 7	教員から新入生へのメッセージ		
15	まとめ	授業内レポート試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜資料を配布します。 欠席した時の課題レポートは後日でも採点 しますので、必ず申し出ること		期末レポート	40.0%	
		レポート	35.0%	
		確認テスト	15.0%	
		出席	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅰ（抄読）		理学療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	小島利彦（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法士が研究を行うことの意味と目的から始まり、具体的な研究法について学ぶ。 研究する前段階であるレビューの作成までを行う。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・理学療法士として研究する意義を学ぶことができる ・文献を検索し、幾つかの文献をまとめるレビューを作成することができる ・後期研究方法論Ⅱで研究するための研究計画書作成の準備ができる				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	研究方法論で学ぶことを理解する なぜ理学療法士が研究法を学ぶのかを理解する		
2	研究が理学療法にどう活かされるか	研究の蓄積が我々の診療報酬や評価・治療にどのように関わっているかを知る		
3	文献検索をしてみよう	文献検索の方法と検索結果の違いについてや注意点について学ぶ		
4	文献検索をしてみよう②	実際に文献検索をしながら、信頼性の高い情報を手に入れる方法についてを学ぶ		
5	文献検索をしてまとめてみよう	調べた文献の管理方法、抄読の方法について学習する		
6	研究デザインとエビデンスレベル	異なる研究デザインやエビデンスレベルとの関連を学ぶ		
7	学術情報に関するリテラシー	学術情報に関するリテラシーを身につける		
8	統計の復習	尺度、信頼区間、平均値、標準偏差、中央値、従属変数、独立変数、よく用いられる統計手法について学習する		
9	診療ガイドラインを読んでもみる①	大腿骨頸部・転子部骨折診療ガイドラインの要点をまとめる中で、読む・理解する力を養う		
10	診療ガイドラインを読んでもみる②	神経系のガイドラインの要点をまとめる中で、読む・理解する力を養う		
11	診療ガイドラインを読んでもみる③	理学療法ガイドライン(心血管、呼吸)の要点をまとめる中で、読む・理解する力を養う		
12	診療ガイドラインを読んでもみる④	興味のあるガイドラインを調べて読むことで、自身が興味のある領域を明確にする		
13	レビューを作成 1	複数の文献を比較する		
14	レビューを作成 2	複数の文献をまとめる		
15	レビューを作成 3	複数の文献をまとめる		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
授業資料は適宜配布		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
研究方法論Ⅱ (方法)		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	小島利彦 (実務経験あり)
授業の概要				
医療専門家である理学療法士にとって、対象者の問題や治療課題を明確にして、改善・解決する能力を高めることは最大の責務である。また、理学療法士自身および理学療法学の発展に資するためには、日々の業務の中から問題意識を明確にして、それを検証し、怪我への努力が求められる。研究方法論を通じて、科学的思考に基づいて真理を追究する姿勢を育成する。そのためには、理学療法士が研究を行うことの意義と目的から始まり、具体的な研究方法について学び、研究する段階である「研究計画書」の作成までを行う。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 理学療法士として研究する意義を説明できる。 2. 研究論文を読み、エクセルを活用してまとめることができる。 3. 抄読会を企画し、座長や口頭発表をすることができる。 4. 研究計画書の作成方法について説明できる。				
回	テーマ	内 容		
1	研究倫理指針とは	研究における倫理の意味づけを教授する。対象者・患者の倫理的配慮、利益相反について概説する。		
2	医療機関における研究支援の実際 研究計画の流れ	医療機関における倫理委員会、研究指導など、実際の現場でどのような対応が行われているのかについて学習する。		
3	文献によく使われる用語	統計学の復習、文献によく使われる用語の意味を学習する。		
4	文献抄読とは?	文献抄読を所定書式に則り行う。		
5	研究計画書とは	研究計画のプロセスについて学習する		
6	研究計画書とは	研究計画書の流れを学習する		
7	研究計画書を作成してみよう	実際に研究計画書作成を体験してみよう		
8	発表資料作成	パワーポイントを用いてプレゼン資料を作成する		
9	発表資料作成	パワーポイントを用いてプレゼン資料を作成する		
10	発表資料作成・グループ内発表	パワーポイントを用いてプレゼン資料を作成する		
11	研究発表①	10人程度発表を行う。座長、タイムキーパー等の役割の重要性を学ぶ。		
12	研究発表②	10人程度発表を行う。座長、タイムキーパー等の役割の重要性を学ぶ。		
13	研究発表③	10人程度発表を行う。座長、タイムキーパー等の役割の重要性を学ぶ。		
14	研究発表④	10人程度発表を行う。座長、タイムキーパー等の役割の重要性を学ぶ。		
15	研究発表⑤ 後期授業まとめ	8人程度発表を行う。座長、タイムキーパー等の役割の重要性を学ぶ。後期授業のまとめを行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		課題・授業姿勢・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床運動学		理学療法科/3年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	小島 利彦(実務経験有)
授業の概要				
・本講義では代表的な疾患に特徴的な異常姿勢・動作の動画を観察し、グループでの討論や模倣、教員の解説などを通して運動学の観点で分析することを目的とする。学生はこれまでに学習した運動学および疾患別の病態について復習し、グループでの演習に積極的に参加することが望ましい。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
■代表的な疾患に特徴的な異常姿勢・動作を運動学・運動力学の観点から分析できる ・異常動作の分析に必要な運動学・運動力学の知識を記述できる ・異常姿勢・動作を相別に観察して異常な運動を列挙できる ・異常姿勢・動作の原因を疾患の特徴と関連付けて仮説立案し、追加で必要となる情報を抽出できる ・異常姿勢・動作を模倣できる				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション・デモンストレーション	シラバス説明 動作分析のデモンストレーション		
2	姿勢・動作を理解するための運動力学(1)			
3	姿勢・動作を理解するための運動力学(2)			
4	姿勢・動作を理解するための関節運動学(1)			
5	姿勢・動作を理解するための関節運動学(2)			
6	正常動作 ー寝返り・起き上がりー			
7	正常動作 ー立ち上がり・歩行ー			
8	変形性膝関節症ー軽度ー	歩行		
9	変形性膝関節症ー中等度ー	歩行		
10	脳血管障害ー軽度弛緩性麻痺ー	寝返り		
11	脳血管障害ー軽度弛緩性麻痺ー	立ち上がり		
12	脳血管障害ー軽度弛緩性麻痺ー	歩行		
13	脳血管障害ー中等度痙攣性麻痺ー	起き上がり		
14	脳血管障害ー中等度痙攣性麻痺ー	立ち上がり		
15	脳血管障害ー重度痙攣性麻痺ー	歩行		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
【購入書籍】 ・症例動作分析ー動画から学ぶ姿勢と動作【全症例web動画付き】(隈元真夫, ヒューマン・プレス) 【参考書籍】 ・15レクチャーシリーズ 理学療法・作業療法テキスト 臨床運動学(石川明ら, 中山書店) ・症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト(豊田輝, 羊土社) ・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(D. A. Neumann, 医歯薬出版)		期末テスト レポート課題 授業内課題	40.0% 50.0% 10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言語聴覚療法概論		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山本・吉村 (実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムについて学習する。また、リハビリテーションが難渋する高次脳機能障害についての知識と理解を深める。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
失語症や嚥下障害、構音障害のメカニズムが理解できる。 治療方法について理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	言語聴覚療法概論	講義		
2	言語発達遅滞	講義		
3	聴覚障害	講義		
4	機能性構音障害	講義		
5	吃音	講義		
6	失語症①	講義		
7	失語症②	講義		
8	口蓋裂・脳性麻痺	講義		
9	構音障害①	講義		
10	構音障害②	講義		
11	発達障害	講義		
12	摂食嚥下障害①	講義		
13	摂食嚥下障害②	講義		
14	音声障害	講義		
15	高次脳機能障害	講義		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験 レポート	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
作業療法概論		理学療法科/2年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(15時間)	必須	白瀬・中川・竹内・木下 (実務経験有)
授業の概要				
作業療法で用いる作業の意味を理解できる。 作業療法の領域を理解できる。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
作業療法を理解できる。				
回	テーマ	内 容		
1	身体障害領域の作業療法 1	概論		
2	身体障害領域の作業療法 2	急性期から回復期における作業療法の実際		
3	発達障害領域の作業療法 1	肢体不自由児に対する作業療法の実際(脳性麻痺・重症心身障害児・筋ジストロフィー・二分脊椎など)		
4	発達障害領域の作業療法 2	発達障害児に対する作業療法の実際(自閉スペクトラム症・注意欠如多動症・限局性学習症・発達性協調運動症)		
5	精神障害領域の作業療法 1			
6	精神障害領域の作業療法 2			
7	地域における作業療法 1	MTDLPを中心に		
8	地域における作業療法 2	MTDLPを中心に		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学Ⅰ (職業倫理・職場管理)		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
理学療法概論で学習した内容をもとに、次年度の臨床実習を視野にいた職場で実践されている考え方 や制度を学習していく。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 理学療法の実施手順や記録、情報管理について理解できること 2. 理学療法実施時の安全管理や危機管理を理解できること 3. 他職種との業務調整、連携の重要性を理解できること 4. 職場倫理(ハラスメント)や現場の問題(苦情)について理解できること 5. 学習した介護保険制度について、再度理解できること 6. トピックスとして、防災、ストレスマネジメントの意識を高めることができる				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	理学療法管理学の概要 若年性認知症		
2	理学療法の業務について 1	手順、記録、情報管理、守秘義務、訴訟など		
3	理学療法の業務について 2	感染、事故など安全・危機管理など		
4	他職種を考える 1	医療場面、主に病院		
5	他職種を考える 2	在宅医療、介護場面		
6	ハラスメント、苦情を考える 1	職場におけるハラスメント、苦情とは何か		
7	ハラスメント、苦情を考える 2	職場におけるハラスメント、苦情の事例を考える		
8	介護保険制度 1	制度の意義、現状と課題、手続き、地域包括ケアシステム など		
9	介護保険制度 2	制度の意義、現状と課題、手続き、地域包括ケアシステム など		
10	トピックス 1 外部講師の方をお招きします	職能を考える		
11	トピックス 2 外部講師の方をお招きします	ストレスマネジメントについて		
12	がんのリハビリテーション	がんのリハビリテーションについて		
13	リスクと災害医療	注意義務違反、災害医療とリハビリテーション		
14	レビュー(課題レポート)	理学療法士におけるインシデントについて、予防と是正 (対処)や事例の文献をまとめる		
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜配布		確認テスト 課題レポート 最終レポート	10.0% 40.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法管理学Ⅱ (保険制度)		理学療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	西潟 央(実務経験あり)
授業の概要				
これから実習(評価実習・臨床実習・地域実習)に行く学年であり、社会性が求められる。社会性に必要な心構え、関連法規、理学療法士に求められているニーズを社会保険制度との関連と合わせて理解できる。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1:介護保険制度、地域包括支援ケアシステムについて理解できる(復習) 2:理学療法プロセス・記録・リスク・注意義務違反について理解できる(復習) 3:災害医療・感染症対策・急変時対応プロセスが理解できる(復習) 4:臨床実習から国家試験および免許取得までのプロセスについて理解できる 5:医療ケアチームおよびチームの中の理学療法士の役割が理解できる 6:ガンのリハビリテーションが理解できる				
テーマ		内 容		
1	オリエンテーション	シラバスの説明、国家試験の出題について 理学療法士国家試験問題、医療保険、介護保険の復習		
2	実習・国家試験・資格と責任	臨床実習の目的と目標、国家試験で求められている事、合格後の国家資格に関する手続きやその責任について		
3	地域貢献を考える	アランマーレ富山の選手と交流をします。 地域包括ケアシステムを考えます。		
4	質問を考える	実習場面では質問する姿勢が問われます、これと考えます。		
5	資格と責任	理学療法業務・記録・注意義務・インシデント・医療事故 実習生が起こしやすいインシデントなど		
6	災害医療とリハビリテーション 感染症	理学療法管理学Ⅰの復習をします		
7	ガンのリハビリテーション	実習で関わる場合があります		
8	インシデント・アクシデント・医療 事故・注意義務違反・苦情 1	事例を考えます		
9	インシデント・アクシデント・医療 事故・注意義務違反・苦情 2	事例を考えます 【確認テスト】		
10	テストレポート	資料を読んで課題を作成してもらいます		
11	トピックス 1	外部講師によるお話を聞いてレポートを作成します 野崎先生		
12	トピックス 2	外部講師によるお話を聞いてレポートを作成します 野崎先生		
13	テストレポートの返却	組織で働くことの意味・役割を考えます。		
14	トピックス 4	外部講師によるお話を聞いてレポートを作成します 村永先生		
15	トピックス 5	外部講師によるお話を聞いてレポートを作成します 村永先生		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料は適宜配布します。 数回確認テストを行います。 止む無く欠席時は、課題レポートを西潟まで取りに来てください。		課題レポート提出 確認テスト テストレポート	40.0% 20.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅰ（総論）		理学療法科/1年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山下祐輔（実務経験あり）
授業の概要				
理学療法評価の意義、目的を知る。 面接技法・バイタルサインについて知り、実施する。 形態測定の意義を知り、実施する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・評価の意義、目的を知り理解する。 ・面接技法について理解し、実施する。 ・バイタルサインについてその数値の示す意味を理解し、実施できる。 ・メジャーを用いて四肢長・周径測定ができる。				
回	テーマ	内 容		
1	評価測定法総論 ①	理学療法評価の総論 評価の意義・目的		
2	評価測定法総論 ②	障害モデル・理学療法プラン 面接技法		
3	バイタルサイン ①	意識レベル（GCS、JCS）・動脈触診と脈拍測定		
4	バイタルサイン ②	血圧測定・呼吸運動と呼吸数測定・酸素飽和度		
5	痛み・しびれの評価	VAS・NRS		
6	形態計測総論	形態測定の目的・方法		
7	上肢の肢長測定 ①	上肢のランドマーク触診・上肢の肢長測定		
8	上肢の肢長測定 ②	上肢のランドマーク触診・上肢の肢長測定		
9	下肢の肢長測定 ①	下肢のランドマーク触診・下肢肢の肢長測定		
10	下肢の肢長測定 ②	下肢のランドマーク触診・下肢肢の肢長測定		
11	上肢の周径測定 ①	上肢のランドマーク触診・上肢の周径測定		
12	上肢の周径測定 ②	上肢のランドマーク触診・上肢の周径測定		
13	下肢の周径測定 ①	下肢のランドマーク触診・下肢肢の周径測定		
14	下肢の周径測定 ②	下肢のランドマーク触診・下肢肢の周径測定		
15	実技チェック・まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中山恭秀 編集：Crosslink理学療法テキスト 理学療法評価学 MEDICALVIEW 2022 林典夫 著：運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢/下肢・体幹 第2版【動画プラス】2022 メジャー		期末試験	50.0%	
		実技試験	50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅱ（基礎）		理学療法科/1年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山本政孝（実務経験有）
授業の概要				
各関節の可動域をゴニオメーターを用いて測定する。 関節可動域制限のある場合の動作を予測する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・ゴニオメーターを用い、日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会による「関節可動域表示ならびに測定法」にそって測定し、記録できる。 ・正常可動域を理解する。 ・関節可動域の異常について考察できる。				
回	テーマ	内 容		
1	関節可動域検査の概要	目的、運動方向、表示法、ゴニオメーター、activeとpassive、		
2	ROM-T（上肢）	肩関節①		
3	ROM-T（上肢）	肩関節②		
4	ROM-T（上肢）	肩甲帯		
5	ROM-T（上肢）	肘関節・前腕		
6	ROM-T（上肢）	手関節・手指		
7	ROM-T（下肢）	股関節①		
8	ROM-T（下肢）	股関節②		
9	ROM-T（下肢）	膝関節・足関節		
10	ROM-T（下肢）	足関節		
11	ROM-T（下肢）	下肢のまとめ		
12	ROM-T（体幹）	頸部		
13	ROM-T（体幹）	体幹		
14	拘縮と強直、変形 ROM-Tのまとめ テスト対策①	拘縮、強直、変形について 実技試験の説明と復習、実技練習		
15	ROM-Tのまとめ テスト対策②	実技試験の説明と復習、実技練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Crosslink理学療法学テキスト 理学療法 評価学 中山 恭秀 編集 ゴニオメーター		期末試験/実技試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
評価測定法Ⅱ(応用、画像認識)		理学療法科/2年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(総時数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60時間)	必須	山本、山下(実務経験者)
授業の概要				
徒手筋力検査、深部腱反射検査、病的反射検査、筋緊張検査、バランス検査の目的・方法・検査結果の解釈について、座学、実技、グループワークを通して学ぶ。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・検査の目的・結果の解釈を説明することができる。 ・筋の起始停止・支配神経・経路を理解した上で、徒手筋力検査を実施することができる。 ・深部腱反射検査、病的反射検査、筋緊張検査、バランス検査の実技が適切に実施することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	反射検査	小テスト 上位運動ニューロンと下位運動ニューロン		
2	反射検査	深部腱反射・表在反射・病的反射 反射検査の解釈の仕方		
3	反射検査	小テスト 上位運動ニューロンと下位運動ニューロン		
4	反射検査	深部腱反射・表在反射・病的反射 反射検査の解釈の仕方		
5	筋緊張検査	筋緊張とは？ 筋緊張検査		
6	筋緊張検査	筋緊張検査の解釈の仕方		
7	筋緊張検査	筋緊張とは？ 筋緊張検査		
8	筋緊張検査	筋緊張検査の解釈の仕方		
9	バランス検査	小テスト バランスとは		
10	バランス検査	バランス検査の概論		
11	バランス検査	バランス検査の実技 ―静的バランス検査―		
12	バランス検査	バランス検査の実技 ―静的バランス検査―		
13	徒手筋力検査法	小テスト、筋力測定概論 肩関節運動の筋肉 筋力測定①		
14	徒手筋力検査法	肩関節運動の筋肉 筋力測定②		
15	徒手筋力検査法	小テスト 肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定①		
16	徒手筋力検査法	肘、前腕、手関節運動の筋肉 筋力測定②		
17	徒手筋力検査法	小テスト 肩甲骨運動の筋肉 筋力測定①		
18	徒手筋力検査法	肩甲骨運動の筋肉 筋力測定②		
19	徒手筋力検査法	小テスト 肩甲骨運動の筋肉 筋力測定①		
20	徒手筋力検査法	肩甲骨運動の筋肉 筋力測定②		
21	徒手筋力検査法	小テスト 股関節運動の筋肉 筋力測定①		
22	徒手筋力検査法	股関節運動の筋肉 筋力測定②		
23	徒手筋力検査法	小テスト 膝関節運動の筋肉 筋力測定①		
24	徒手筋力検査法	膝関節運動の筋肉 筋力測定②		
25	徒手筋力検査法	小テスト 足関節運動の筋肉 筋力測定①		
26	徒手筋力検査法	足関節運動の筋肉 筋力測定②		
27	徒手筋力検査法	小テスト 体幹 筋力測定		
28	徒手筋力検査法	頭部 筋力測定		
29	徒手筋力検査法	小テスト 顔面の筋		
30	徒手筋力検査法	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『理学療法』著：理学療法科編 医療書出版 『新・徒手筋力検査法』著：山本政幸(2019) (改訂) 協同出版		期末試験 実習・実技評価	40.0% 60.0%	・各課題毎に有期考・世評・運動学の小テストを行う ・試験後も丁寧に講義を受けること ・試験結果をもって評価する。

科目名		学科/学年	単元/時期	授業計画
評価測定法Ⅱ（総合）		理学療法科/2年	2025/後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間）	必須・選択	担当教員
90分	20回	2単位（40時間）	必須	吉田・奥八 （実技経験者）
授業の概要				
夜間別の理学療法評価（Brunstrom recovery stage, Stroke Impairment Assessment Set, 協調性検査、脳神経検査、高次脳機能検査、整形外科的テスト、疼痛検査、疼痛検査、呼吸器検査）について、医学、実技、グループワークを通して、適切に検査を実施できるよう学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・各疾患別の理学療法評価の目的、検査範囲および準備の準備、方法、対象者への説明が適切に実施できる				
・各疾患別の理学療法評価の方法について、選択、列記、記述することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	片麻痺機能検査	運動反応と協調運動、Brunstrom testのステージ		
2	片麻痺機能検査	Brunstrom test（上肢）		
3	片麻痺機能検査	Brunstrom test（手・指）		
4	片麻痺機能検査	Brunstrom test（下肢）		
5	Stroke Impairment Assessment Set	Stroke Impairment Assessment Setの実技		
6	Stroke Impairment Assessment Set	Stroke Impairment Assessment Setの実技		
7	Stroke Impairment Assessment Set	Stroke Impairment Assessment Setの実技		
8	Stroke Impairment Assessment Set	Stroke Impairment Assessment Setの実技		
9	協調性検査	協調性運動障害について、鼻指鼻試験、踵指試験、膝打ち試験、平足内・回外試験、Romberg試験 等の実技		
10	協調性検査	協調性運動障害について、鼻指鼻試験、踵指試験、膝打ち試験、平足内・回外試験、Romberg試験 等の実技		
11	脳神経検査	脳神経検査の実技		
12	脳神経検査	脳神経検査の実技		
13	高次脳機能検査	物体認知検査の検査、身体認知検査の検査、空間認知検査の検査		
14	高次脳機能検査	失行の検査、認知機能検査（HDS-R、MMSE）		
15	まとめ①	各疾患別の理学療法評価のまとめ		
16	整形外科的テスト	上肢の整形外科的テストの実技		
17	整形外科的テスト	上肢の整形外科的テストの実技		
18	整形外科的テスト	下肢の整形外科的テストの実技		
19	整形外科的テスト	下肢の整形外科的テストの実技		
20	整形外科的テスト	頭部・体幹の整形外科的テスト		
21	整形外科的テスト	頭部・体幹の整形外科的テスト		
22	疼痛検査	疼痛検査の実技		
23	疼痛検査	疼痛検査の実技		
24	知覚検査（表在感覚）	知覚の分類、知覚検査器具の説明、表在感覚検査の実技		
25	知覚検査（表在感覚）	知覚の分類、知覚検査器具の説明、表在感覚検査の実技		
26	知覚検査（深部感覚・複合感覚）	深部感覚検査の実技		
27	知覚検査（深部感覚・複合感覚）	深部感覚検査の実技		
28	呼吸・嚥下機能の評価	視診、触診、打診、聴診の実技、スパイロメトリー・フローボリューム計測の説明		
29	呼吸・嚥下機能の評価	視診、触診、打診、聴診の実技、スパイロメトリー・フローボリューム計測の説明		
30	まとめ②	各疾患別の理学療法評価のまとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
最新 理学療法士講座 理学療法評価学 編著：星月久 医歯薬出版株式会社		実習・実技評価 期末試験	60.0% 40.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ外傷評価学		理学療法科/2年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	山下祐輔(実務経験者)
授 業 の 概 要				
スポーツ現場で用いられる様々な評価項目を学修する。また、評価方法を体験することで正しい測定方法を学修する。 子どもから高齢者までのロコモティブシンドロームの評価方法を学修する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷の診断学と評価法について理解し、治療法の学習を開始できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	スポーツ外傷評価総論	スポーツ現場で用いられる評価について		
2	姿勢アライメント評価	立位・前屈評価		
3	柔軟性評価	柔軟性評価・原テスト		
4	機能評価			
5	バランス機能評価	Star Excursion Balance Testなど		
6	アジリティー評価①	Functional Movement Screen		
7	アジリティー評価②			
8	体幹評価	体幹の筋出力を評価し、体幹を使用した四肢トレーニング		
9	ストレングス評価			
10	有酸素系評価			
11	フィジカルチェック・外傷予防①	サッカーにおけるフィジカルチェック・外傷予防 FIFA11+の実践		
12	フィジカルチェック・外傷予防②	サッカーにおけるフィジカルチェック・外傷予防 FIFA11+の実践		
13	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドローム評価項目の意義・実践方法		
14	2ステップテスト	2ステップテストの意義・実践方法		
15	超音波エコー評価	スポーツ現場で用いる超音波エコーの評価方法		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		課題レポート	100.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
運動療法Ⅰ（基礎）		理学療法科/2年	2025/前期	講義（演習も含む）
授業時間	回数	単位数（1時間分）	必須・選択	担当教員
90分	34回	2単位（60時間）	必須	山本 俊幸、早丸 翔太 （実務経験あり）
授業の概要				
座学・実技を踏まえながら学習を進め、運動療法の基礎となる解剖学・生理学・運動学の知識を習得・整理しながら、基本的な運動療法の知識・技術を獲得する。運動療法の実技を中心として授業を進め、グループワークや演習を取り入れながら、基礎となる解剖学・生理学・運動学の知識を確認したり、復習することを目指す。				
授業終了時の到達目標				
・基本的な運動療法（関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動、協調性運動、バランス運動）の目的、方法を理解・記述することができる。 ・基本的な運動療法について、模倣することができる。				
回	予 ー ー	内 容		
1	運動療法とは、関節可動域運動①	運動・運動療法の定義と特徴、分類、適応と禁忌、一般的な運動療法の手順、関節可動域運動の目的		
2	関節可動域運動②	関節の可動性、関節包内運動、ストレッチング、拘縮のメカニズム、拘縮の改善について		
3	関節可動域運動③	関節可動域運動の方法		
4	関節可動域運動④	実技：骨運動を用いた方法		
5	関節可動域運動⑤	実技：関節運動学を用いた方法		
6	関節可動域運動⑥	実技：機械的関節可動域運動		
7	関節可動域運動⑦	実技：ストレッチ		
8	筋力増強運動①	筋力増強運動の目的		
9	筋力増強運動②	筋の機能、関節運動と関連させた収縮様式の分類		
10	筋力増強運動③	運動の種類		
11	筋力増強運動④	筋力増強の理論		
12	筋力増強運動⑤	収縮様式別による筋力増強運動、実技		
13	筋力増強運動⑥	収縮様式別による筋力増強運動、実技		
14	筋力増強運動⑦	臨床での実際、実技		
15	課題発表	関節可動域運動・筋力増強運動に関する課題発表		
16	バランスとバランス機能	バランスやバランス機能の定義、関係を学習する 支持基底面、静的、動的バランスについて学習する		
17	姿勢・動作におけるバランス意義	バランスに影響を及ぼす姿勢、アライメント不良、不随意運動などについて学習する		
18	バランスの評価方法	一般的なバランス評価(BBS、FRTなど)の方法、有用性について学習し演習を行う		
19	バランス機能を改善する運動療法	片麻痺、小脳運動性失調症、Parkinson病などを例として治療の実際について学習する		
20	協調性機能と運動療法①	協調性機能について、一般的な評価の方法について概説		
21	協調性機能と運動療法②	協調性機能の運動療法について概説する		
22	循環機能と運動療法①	循環機能とは？ 循環機能の評価～治療について学習する		
23	循環機能と運動療法②	循環機能障害に対する運動療法		
24	循環機能と運動療法③	循環機能障害に対する運動療法の演習を行う		
25	呼吸機能と運動療法①	呼吸機能とは？ 呼吸機能の評価～治療について学習する		
26	呼吸機能と運動療法②	呼吸機能障害に対する運動療法		
27	呼吸機能と運動療法③	呼吸機能障害に対する運動療法の演習を行う		
28	有酸素運動とレジスタンストレーニング	有酸素運動、レジスタンストレーニングの実際 演習		
29	加齢による運動機能変化と運動療法	フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームに関連した評価、運動療法を学習する		
30	まとめ①	前半講義分の総復習を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Crosslink 理学療法テキスト 運動療法 学 第一版		授業内課題、テスト等 期末試験	40.0% 60.0%	

科目名		学科/学年	年度/学期	授業形態
運動療法Ⅱ（応用）		理学療法科/2年	2025/後期	講義（演習も含む）
授業時間	約60分	単位数（時間数）	2単位（60時間）	必修
80分	30回	2単位（60時間）	必修	山本・平丸 （実務経験あり）
授業の概要				
筋骨格障害系、神経障害系、内臓障害系、その他の疾患（ICU、長期療養病など）に対する運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点について、座学・実技・グループワークを通して理解する。【関連経験】病態動機				
授業終了時の到達目標				
- 筋骨格障害系、神経障害系、内臓障害系、その他の疾患（ICU、長期療養病など）の病態、症状、理学療法評価の項目、運動療法、リスク管理が判別、選択、記述できる。 - 各疾患に対する基礎的な運動療法の提供ができる。				
回	テーマ	内 容		
1	骨格の運動療法	骨格・筋肉の定義、骨格の分類、外力の種類と骨折型、転位の種類、年齢と骨格の特徴、運動療法、留意点		
2	骨の癒合・半月板損傷の運動療法	概念と特徴、治療、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
3	膝関節の運動療法	膝関節とは、解剖、分類、症状、治療、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
4	アキレス腱断裂の運動療法	アキレス腱断裂とは、原因、症状、治療、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
5	関節リウマチの運動療法	症状、診断、経過、治療、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
6	変形性膝関節症の運動療法①	特徴、病態、症状、治療、運動療法の目的、評価のポイント、運動療法の方法		
7	変形性膝関節症の運動療法②	特徴、病態、症状、治療、運動療法の目的、評価のポイント、運動療法の方法		
8	変形性膝関節症の運動療法③	特徴、病態、症状、治療、運動療法の目的、評価のポイント、運動療法の方法		
9	変形性膝関節症の運動療法④	特徴、病態、症状、治療、運動療法の目的、評価のポイント、運動療法の方法		
10	側弯症の運動療法	側弯症とは、分類、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
11	骨髄損傷の運動療法①	診断および評価、障害症状と合併症、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
12	骨髄損傷の運動療法②	診断および評価、障害症状と合併症、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
13	腰部脊柱管狭窄症の運動療法	病態とバイオメカニクス、画像所見、症状、治療法、運動療法、運動療法上の留意点		
14	腰痛の運動療法 肩関節痛の運動療法	疾患の概念と診断基準、病態と症状発現メカニズム、症状、治療法、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
15	肘痛の運動療法	疾患の概念と診断基準、病態と症状発現メカニズム、症状、治療法、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
16	脳血管障害の運動療法（急性期）	脳卒中ガイドライン、急性期リハビリテーション、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
17	脳血管障害の運動療法（回復期）①	脳卒中ガイドライン、運動療法上の経過と特徴、姿勢制御と歩行障害、体性感覚障害と運動障害、疼痛と運動障害		
18	脳血管障害の運動療法（回復期）②	脳血管障害と廃用症候群、言語障害と運動障害、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
19	パーキンソン病・パーキンソンニズムの運動療法	パーキンソン病とパーキンソンニズム、鑑別、症状、障害分類、治療法、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
20	脳性麻痺の運動療法	脳性麻痺の病態、分類、障害、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
21	脊髄小脳変性症の運動療法	疾患概念、疾患分類、医学的管理、薬物療法、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
22	筋萎縮性側索硬化症の運動療法	概念と特徴、臨床症状、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
23	ギランバレー症候群の運動療法 低ジストロフィーの運動療法	定義と診断基準、病態の特徴、治療戦略、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
24	呼吸器不全の運動療法	概念、定義、分類、慢性呼吸不全の基礎疾患、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
25	外科手術と運動療法	外科手術後患者の呼吸不全、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点、人工呼吸器の特徴		
26	循環器疾患の運動療法	概念と特徴、冠動脈疾患、A/Lや運動耐容性の評価		
27	循環器疾患の運動療法	運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
28	腎疾患の運動療法 糖尿病の運動療法	定義、インスリンの作用システム、分類、診断基準と高血糖症状、合併症、検査指標、治療、運動療法、留意点		
29	ICUの運動療法 長期療養病の運動療法	概念と特徴、運動療法の目的・方法、運動療法上の留意点		
30	今後期待される運動療法領域	前庭障害、視覚障害、スポーツ障害、ウィメンズヘルス、リハビリテーションロボットを活用した運動療法について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
運動療法学 第5版 編著 吉岡雅彦		中間試験 期末試験	50.0% 50.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理療法Ⅰ		理学療法科／1年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	西潟央（実務経験有）
授業の概要				
疼痛の生理学 可動域制限のメカニズム 物理療法の基礎 物理療法の適応、効果、禁忌を学ぶ 物理療法機器の使用方法を学ぶ 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
疼痛の生理学を理解する 可動域制限のメカニズムを理解する 物理療法の基本、原理を理解する 物理療法の適応、効果、禁忌を理解する 物理療法機器の使用方法を知る				
回	テーマ	内 容		
1	疼痛	疼痛の生理学		
2	可動域制限	可動域制限のメカニズム		
3	温熱療法①	温熱療法（伝導熱）の基本、原理 伝導熱：ホットパック、パラフィン浴		
4	温熱療法②	温熱療法（輻射熱）の基本、原理 輻射熱：赤外線療法		
5	温熱療法③	温熱療法（エネルギー変換熱）の基本、原理 エネルギー変換熱：超短波療法、極超短波療法		
6	寒冷療法	寒冷療法の基本、原理 寒冷療法：アイスパック、冷水浴、コールドスプレー		
7	超音波療法①	超音波療法の基本、原理 超音波機器、超音波診断装置		
8	超音波療法② 実習	超音波機器の実演、体験		
9	光線療法①	光線療法の基本、原理 紫外線療法、レーザー療法		
10	牽引療法	牽引療法の基本、原理（デルマトーム含む） 自重牽引、牽引療法機器		
11	グループ課題①	物理療法機器の使用方法を学ぶ 目的、効果、禁忌を学ぶ		
12	グループ課題②	物理療法機器の使用方法資料作成		
13	グループ発表①	物理療法機器の使用方法、目的、効果、禁忌など グループ発表		
14	グループ発表②	グループ発表		
15	物理療法機器の使用体験	物理療法使用体験、演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「エビデンスから身につける物理療法」羊土社		確認テスト 課題・レポート 期末試験	10.0% 20.0% 70.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理療法Ⅱ		理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	西潟 央（実務経験有）
授業の概要				
物理療法Ⅰで学んだことを復習します。 物理療法の臨床への実際についてお話しします。 物理療法の生理学的作用をお話しします。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
物理療法の種類とその作用（禁忌）を理解できる 物理療法機器のもつ作用と生理学的作用を理解できる 臨床場面における物理療法の適応が理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション 物理療法とは	授業の進め方		
2	温熱療法 1	温熱の生体への作用と臨床場面での実際 ホットパック・パラフィン・極超短波・超音波		
3	温熱療法 2	温熱の生体への作用と臨床場面での実際 ホットパック・パラフィン・極超短波・超音波		
4	温熱療法 3	温熱の生体への作用と臨床場面での実際 ホットパック・パラフィン・極超短波・超音波		
5	温熱療法 4	復習と中間試験		
6	寒冷療法 電気刺激療法 1	生体への作用と臨床場面での実際		
7	電気刺激療法 2	生体への作用と臨床場面での実際		
8	光線療法	生体への作用と臨床場面での実際		
9	牽引療法・圧迫療法	生体への作用と臨床場面での実際		
10	水治療法	生体への作用と臨床場面での実際		
11	トピックス 1	外部講師の方を招いて臨床への応用についてお話して もらう予定です		
12	トピックス 2	外部講師の方を招いて臨床への応用についてお話して もらう予定です		
13	トピックス 3	外部講師の方を招いて臨床への応用についてお話して もらう予定です		
14	トピックス 4	外部講師の方を招いて臨床への応用についてお話して もらう予定です		
15	まとめ	総復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
エビデンスから身につける物理療法 第2版：羊土社		レポート 中間試験 期末試験	20.0% 30.0% 50.0%	機器の使用体験を もとに授業内課題 を課す。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
義肢学		理学療法科/2年	2025/後期	講義(演習も含む)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	長谷川丈剛(実務経験あり)
授業の概要				
本講義では、切断と義肢について基礎理論から適合技術、日常生活の指導に至るまで教授する。 【実務経験】製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
切断に対応した義肢が選択できる。 義肢を生活上で使用する上での注意点を理解することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	概要	講義		
2	下肢切断の理学療法評価	講義		
3	下腿義足	講義		
4	下腿義足	講義		
5	大腿義足	講義		
6	大腿義足	講義		
7	股義足	講義		
8	膝義足・サイム義足・足部部分義足	講義		
9	各種継手	講義		
10	下肢切断に対する理学療法	講義		
11	義手	講義		
12	義手	講義		
13	義手	講義		
14	まとめ	復習		
15	まとめ	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 移乗とその対応が分かる貼画付き 第2版』:高田治実 監修 羊土社 2023年		期末試験	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
装具学		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	中川・竹中（実務経験有）
装具の定義、目的、原理などについて学んだ後、構成する部品、装具の種類、適合判定について学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
装具の分類、機能、目的について述べる事が出来る。 疾患や対象者に合った装具を選定および作製できる。				
回	テーマ	内 容		
1	装具学総論・下肢装具の構成部品とチェックアウト	装具の目的、機能、対象疾患、分類、3点固定の原理 装具作成の流れ 下肢装具の代表的な構成部品の名称と機能特徴 基本的なチェックアウトについて		
2	足継手の制御機構	足継手の種類と機構 足継手による足関節の制限・制御メカニズム		
3	末梢神経障害の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
4	脳卒中片麻痺の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
5	対麻痺の装具	装具の名称と残存機能レベルに応じた適応について 装具の機能と特徴について		
6	整形外科的装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
7	頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
8	小児疾患の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
9	脊椎側彎症の装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
10	関節リウマチの装具	装具の名称と症状ごとの適応について 装具の機能的特徴とメカニズムについて		
11	短下肢装具の作成実習①	シューホーンブレイスの作成過程について、実習を交え学ぶ		
12	短下肢装具の作成実習②	シューホーンブレイスの作成過程について、実習を交え学ぶ		
13	装具使用中の歩行分析 リハロボット、介護ロボット	装具使用中の歩行分析、装具の調整について学ぶ リハ・介護分野のロボティクスについて		
14	義肢装具の給付制度	義肢装具の給付制度の種類と概要について理解する 治療用（医療用）、構成用義肢装具における費用の申請方法について理解する		
15	短下肢装具の作成実習③	シューホーンブレイスの作成過程について、実習を交え学ぶ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「PT・OTビジュアルテキスト義肢装具学第2版」高田治実 監修 羊土社		期末試験	100.0%	教科書は必ず持参する 短下肢装具の作成実習においては、ジャージなど汚れてもよい服装で参加する

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅰ（総論）		理学療法科/1年	2025/前期	授業・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	渡邊 有子（実務経験有）
授業の概要				
ADLとはなにか？福祉用具や車いすや歩行器、杖などの歩行補助具について使い方を学ぶ。障害者・高齢者用体験グッズを装着し、日常生活を体験をする。基本動作について学ぶ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・ADLと基本動作について理解する。 ・杖や車椅子の名称や使用方法、介助方法を獲得する。				
回	テーマ	内 容		
1	ADL概論	ADLについて		
2	福祉用具	福祉用具の種類、対象疾患、使用方法		
3	松葉杖の使い方①	松葉杖の処方、歩行		
4	松葉杖の使い方②	松葉杖の立ち座り、階段昇降		
5	杖、歩行器の処方①	杖の種類、処方		
6	杖、歩行器の処方②	杖での歩行、階段		
7	車椅子の処方	車椅子の種類、各部の名称、処方		
8	車椅子移動	車椅子の駆動、介助法、歩行器		
9	基本動作総論	基本動作とは何か		
10	基本動作 起居動作	起居動作の注意点を理解する		
11	基本動作 座位、立ち上がり	座位姿勢や立ち上がり動作について注意点を理解する		
12	基本動作 移乗動作について	移乗動作の演習を通して、注意点を理解する		
13	身の回り動作	身辺動作について学習する		
14	ADL評価とその実際	日常生活動作の評価とその実際について学習する		
15	BI・FIM	日常生活動作能力の評価スケールについて学習する		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日常生活活動テキスト 改定第3版 細田多穂 監修		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日常生活活動Ⅱ（各論）		理学療法科/2年	2025/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	渡邊有子（実務経験あり）
授業の概要				
正常動作の起居動作についてGWにて分析します。 そのあと、各代表疾患の特徴を踏まえてADL指導のポイントと同時に起居動作指導方法の検討、介助方法の検討と体系的に学習します。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・正常動作を知る。 ・正常動作と各種疾患の典型例との違いを理解する。 ・各種疾患の典型動作例を理解し、ADL指導のポイントを理解する。 ・移乗動作の介助方法を習得する。				
回	テーマ	内 容		
1	動作分析総論	姿勢動作の観察ポイント		
2	正常動作分析	寝返り		
3		起き上がり		
4		起居動作（背臥位～端坐位） 立ち上がり、移乗動作		
5	脳卒中片麻痺動作分析	起居動作		
6		立ち上がり、移乗動作		
7	代表的疾患（脳卒中片麻痺患者例）	更衣動作 起居動作方法		
8	代表的疾患（脊髄損傷上位頸髄レベル患者例）	更衣動作 起居動作方法		
9	代表的疾患（脊髄損傷下位頸髄レベル患者例）	更衣動作 起居動作方法		
10	代表的疾患（脊髄損傷胸腰髄レベル患者例）	更衣動作 起居動作方法		
11	代表的疾患（リウマチ、膝OAの患者例）	更衣動作 起居動作方法		
12	代表的疾患（頸部骨折患者例①）	更衣動作、起居動作方法①		
13	代表的疾患（頸部骨折患者例②）	更衣動作、起居動作方法②		
14	大脳切断患者例 高齢者患者例 移乗動作の介助方法	ADL指導のポイント 疾患別移乗動作の介助方法		
15	まとめ	まとめ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
『日常生活活動学テキスト』細田多穂 監 南江堂		期末試験	100.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/学期	授業形態
理学療法学科Ⅰ-Ⅰ（必修）		理学療法科/2年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間）	必修・選択	評価割合
90分	30回	2単位（60時間）	必須	小試験（実地試験有）
授業の概要				
・代表的な運動器疾患の病態、修復の基礎理論を学び、それらに対して基本的理学療法を実践するための評価・治療技術および思考力を養うことを目指す。 ・学生は教員のデモンストレーションを詳細に観察して模倣し、個人ワーク・グループワークでは基礎理論をもとに演習課題に対して自身の考察内容を発表し、積極的に課題解決を図る姿勢で講義に参加することが望ましい。 【実習経験】病院勤務				
授業終了後の到達目標				
■代表的な運動器疾患に対する基本的理学療法評価・治療の基礎的な知識・技能を身に付ける。 ・運動器疾患の病態、基本的理学療法評価・治療の知識を列記・記述できる。 ・教員が実施する疾患別の基本的理学療法評価・治療技術を正しく模倣できる。 ・演習に対する個人ワーク・グループワークに積極的に参加し、考察した内容を説明できる。				
回	予 ー ー	内 容		
1	運動器障害理学療法総論①			
2	運動器障害理学療法総論②			
3	大腿骨頸部骨折	講義・実技・演習		
4	大腿骨頸部骨折	講義・実技・演習		
5	大腿骨頸部骨折	講義・実技・演習		
6	大腿骨頸部骨折	講義・実技・演習		
7	変形性股関節症	講義・実技・演習		
8	変形性股関節症	講義・実技・演習		
9	変形性股関節症	講義・実技・演習		
10	変形性股関節症	講義・実技・演習		
11	変形性股関節症	講義・実技・演習		
12	変形性股関節症	講義・実技・演習		
13	変形性股関節症	講義・実技・演習		
14	変形性股関節症	講義・実技・演習		
15	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
16	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
17	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
18	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
19	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
20	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
21	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
22	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
23	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
24	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
25	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
26	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
27	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
28	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
29	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
30	肩関節周囲炎	講義・実技・演習		
教科書・教材		評価基準	評価結果	その他
『運動器障害理学療法』 （加藤 浩、オウゴンビル）		履修試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ－1（小児）		理学療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授業の概要				
・CP、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの病態、症状 ・CP、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの評価と理学療法 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・CPの病態、臨床像を理解する。 ・CPに対する理学療法の概略を理解する。 ・筋ジス、二分脊椎、発達障害に関する臨床像と理学療法の概略を理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	脳性まひの評価概論	脳性まひの病態、臨床像について。GMFCS, GMFM, FEDI, FIMなどの評価指標について		
2	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)1	両麻痺の姿勢、基本動作についてビデオ画像をもとに分析して整理する①		
3	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)2	両麻痺の姿勢、基本動作についてビデオ画像をもとに分析して整理する②		
4	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)3	姿勢・動作分析から機能障害の問題点との関連性を整理する。		
5	脳性麻痺に対する評価(ビデオ分析を通じて)4	ICFに基づき問題点を整理し、治療目標を立てる。		
6	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する①		
7	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)2	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する②		
8	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)3	両麻痺のCP児に対する治療場面を観察し、両麻痺に対する基本的治療の方法を理解する③		
9	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)4	脳性麻痺のタイプ別の治療に対する考え方の整理する		
10	脳性麻痺に対する治療(ビデオ分析を通じて)5	脳性麻痺治療ガイドラインについて		
11	重症心身障害児・者に対する理学療法について1	重症心身障害児・者に対する理学療法の考え方について		
12	重症心身障害児・者に対する理学療法について2	重症心身障害児・者に対する姿勢ケアの考え方と実際		
13	二分脊椎の理学療法について	二分脊椎の病態、症状について 損傷レベルに応じた理学療法について		
14	小児の整形外科疾患について	小児の整形外科疾患の臨床像と理学療法について		
15	発達障害について	自閉症スペクトラム、ADHD、LDの臨床像と理学療法の役割について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
イラストで分かる小児理学療法 医歯薬出版		期末試験	60.0%	
イラストで分かる人間発達学 医歯薬出版		課題・レポート	40.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法士国家試験予備校 (内科) (含む吸引)		理学療法科/3	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須/選択	担当教員
90分	30回	1単位 (30時間)	必須	中丸、西岡 (後援経験有)
授業の概要				
本講義では、代表的な内科疾患の病態を説明し、それらに対して基本的理学療法を実施するための理学療法評価、理学療法、それらを実施するための臨床推論を学ぶ。 【後援経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・ 内科疾患の病態、基本的評価、基本的治療の知識を整理・記述することができる。 ・ 内科疾患の基本的評価を視察することができ、評価結果の解釈を記述・説明することができる。 ・ 講義課題・グループワークを通して、各内科疾患に対する評価、理学療法に関する評価や治療における理論を理解できる。				
回	予 ー ー	内 容		
1	循環器の構造としくみ	循環器領域のリハビリテーション医療において必要な基礎知識について今一度学習する		
2	呼吸器の構造としくみ	呼吸器領域のリハビリテーション医療において必要な基礎知識について今一度学習する		
3	運動生理と運動処方	内科障害のリハビリテーションを行う上で重要な運動生理についてや運動処方の基礎について今一度学習する		
4	虚血性心疾患の治療のための基礎	虚血性心疾患の病態・症状・障害		
5	虚血性心疾患の評価、治療	医学的検査、医師による治療、理学療法評価		
6	虚血性心疾患の評価、治療②	理学療法士による治療(包括的リハビリテーションを学習)		
7	弁膜疾患の治療のための基礎	弁膜症の病態・症状・障害		
8	弁膜疾患の評価、治療	医学的検査、医師による治療～評価、治療		
9	心不全の治療のための基礎	右心・左心不全の基本病態～治療		
10	心不全の評価、治療	理学療法評価、理学療法の実施		
11	循環器疾患まとめ	循環器疾患の総復習・発表準備		
12	循環器疾患 発表	ケーススタディ		
13	COPD、間質性肺炎の病態、治療手段	病態から理学療法手技 実技演習		
14	COPD、間質性肺炎の病態、治療手段	病態から理学療法手技 実技演習		
15	周術期呼吸リハビリテーション	特徴、注意点、実技演習		
16	呼吸不全とは	基本病態から治療		
17	呼吸不全 ケーススタディ	ケーススタディ		
18	人工呼吸器管理	人工呼吸器の特徴、管理方法		
19	人工呼吸器管理	実技演習 人工呼吸器装着中のリハビリを演習にて行う		
20	呼吸器疾患まとめ	呼吸器疾患の総復習・発表準備		
21	呼吸器疾患 発表	授業内課題発表		
22	糖尿病の診療	糖尿病の病態、合併症、リハビリの目的		
23	糖尿病の診療②	糖尿病診療のチームアプローチ		
24	腎疾患・末梢動脈疾患の診療	腎疾患、末梢動脈疾患の基本病態、特徴		
25	腎疾患・末梢動脈疾患の診療②	腎疾患、末梢動脈疾患への進展予防、治療		
26	がんリハビリテーション	急性期～緩和ケアの評価、治療		
27	後期総復習①	西岡担当分の復習		
28	後期総復習②	中丸担当分の復習		
29	吸引・吸痰	吸引・吸痰研修を行う		
30	吸引・吸痰	吸引・吸痰研修を行う		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Frost's book 理学療法士テキスト 内科療看護理学療法士 授業スライド		期末試験 授業内課題	60.0% 40.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ～Ⅱ(前期)		理学療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(90時間)	必須	柴八真治(実務経験有)
授業の概要				
本授業は、臨床実習で経験してきた整形外科疾患に対するケーススタディを通じて、病態、理学療法評価、治療についての基礎知識と実践を復習する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
整形外科疾患を有する方への理学療法評価から治療までの一連の流れを理解する				
回	テーマ	内 容		
1	骨折			
2	骨折			
3	高齢者の骨折			
4	高齢者の骨折			
5	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア			
6	腰椎症・腰椎椎間板ヘルニア			
7	変形性股関節症（THA術後療法）			
8	変形性股関節症（THA術後療法）			
9	変形性膝関節症（TKA術後療法）			
10	変形性膝関節症（TKA術後療法）			
11	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）			
12	末梢神経損傷（顔面神経麻痺）			
13	末梢神経障害			
14	末梢神経障害			
15	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）			
16	頸肩腕症候群（肩関節周囲炎含む）			
17	脊髄損傷			
18	脊髄損傷			
19	関節リウマチ			
20	関節リウマチ			
21	胸壁出口症候群・乳がん（手術後）			
22	胸壁出口症候群・乳がん（手術後）			
23	頸椎・腰椎術後療法			
24	頸椎・腰椎術後療法			
25	スポーツ外傷 AⅠ・半月板損傷			
26	スポーツ外傷 AⅡ・半月板損傷			
27	関節・切開と義肢			
28	関節・切開と義肢			
29	まとめ			
30	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、配布		課題	100.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ-Ⅱ（神経）		理学療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
100分	20回	2単位（60時間）	必須	宮川孝彦（実務経験有）
授業の概要				
本授業では、臨床実習で経験した症例を元にケーススタディを中心に脳血管障害、脊髄損傷を中心とした中枢神経疾患と難病の理学療法について、病態、理学療法評価、治療に関する実践と基礎的知識を復習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
神経疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる				
回	テ ー マ	内 容		
1	脳血管障害	片麻痺の理学療法（基本概念）1		
2	脳血管障害	片麻痺の理学療法（基本概念）2		
3	脳血管障害	理学療法評価		
4	脳血管障害	理学療法評価		
5	脳血管障害	急性期の理学療法		
6	脳血管障害	急性期の理学療法		
7	脳血管障害	回復期の理学療法		
8	脳血管障害	回復期の理学療法		
9	脳血管障害	維持期の理学療法		
10	脳血管障害	維持期の理学療法		
11	脊髄損傷の理学療法 1	病態 1		
12	脊髄損傷の理学療法 2	病態 2		
13	脊髄損傷の理学療法 3	評価基準 1		
14	脊髄損傷の理学療法 4	評価基準 2		
15	脊髄損傷の理学療法 5	治療 1		
16	脊髄損傷の理学療法 6	治療 2		
17	Parkinson病の理学療法	病態・評価		
18	Parkinson病の理学療法	治療		
19	運動失調症の理学療法			
20	運動失調症の理学療法			
21	難病の理学療法	脊髄小脳変性症		
22	難病の理学療法	脊髄小脳変性症		
23	難病の理学療法	多発性硬化症		
24	難病の理学療法	多発性硬化症		
25	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
26	難病の理学療法	筋萎縮性側索硬化症		
27	難病外傷	病態・評価		
28	難病外傷	治療		
29	まとめ 1			
30	まとめ 2			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、配布		課題	100/0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ-2 (小児)		理学療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	杉本和彦 (実務経験有)

授業の概要

本授業では、脳性麻痺児を中心に、発達障害に対する病態、評価、治療についての基本的知識を復習する。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

小児疾患に対する理学療法評価から治療の流れを理解できる

回	テーマ	内 容
1	脳性麻痺児に対する評価・治療 1	
2	脳性麻痺児に対する評価・治療 2	
3	脳性麻痺児に対する評価・治療 3	
4	脳性麻痺児に対する評価・治療 4	
5	筋ジストロフィーに対する理学療法 1	
6	筋ジストロフィーに対する理学療法 2	
7	筋ジストロフィーに対する理学療法 3	
8	二分脊椎に対する理学療法 1	
9	二分脊椎に対する理学療法 2	
10	重症心身障害児に対する理学療法 1	
11	重症心身障害児に対する理学療法 2	
12	発達障害に関する理学療法 1	
13	発達障害に関する理学療法 2	
14	発達障害に関する理学療法 3	
15	まとめ	

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布	課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ－2（内科）		理学療法科/4年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本和彦（実務経験有）
授業の概要				
本授業では、呼吸・循環・代謝系の理学療法を実施するうえで、各疾患における病態、評価、理学療法、リスク管理について復習し、ケーススタディを通じて学習内容の理解を深めることを目的とする【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
内科疾患の理学療法の評価から治療の流れを理解できる				
回	テーマ	内 容		
1	呼吸器疾患に対する理学療法			
2	呼吸器疾患に対する理学療法			
3	呼吸器疾患に対する理学療法			
4	呼吸器疾患に対する理学療法			
5	呼吸器疾患に対する理学療法			
6	循環器疾患に対する理学療法			
7	循環器疾患に対する理学療法			
8	循環器疾患に対する理学療法			
9	循環器疾患に対する理学療法			
10	循環器疾患に対する理学療法			
11	代謝疾患に対する理学療法			
12	代謝疾患に対する理学療法			
13	代謝疾患に対する理学療法			
14	代謝疾患に対する理学療法			
15	まとめ			
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜、資料配布		課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
超音波エコーと精密触診		理学療法科/2年	2025/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	山下祐輔(実務経験者)
授業の概要				
全身の運動器の構造物である筋、腱、神経、血管などを超音波エコーで描出する方法と精密に触診する方法を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身の運動器の構造物である筋、腱、神経、血管などを超音波エコーで描出しつつ、精密触診によって状態を把握することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	体表解剖①	下肢の体表解剖・基礎技術を学習する。		
2	体表解剖②	上肢の体表解剖・基礎技術を学習する。		
3	精密触診の基礎技術①	下肢の精密触診の基礎技術を学習する。		
4	精密触診の基礎技術②	上肢の精密触診の基礎技術を学習する。		
5	超音波エコーの基礎技術	超音波エコーの基礎技術(操作方法、神経による長軸・短軸の操作切替方法、骨の長軸描出)		
6	足関節	足関節のエコー描出(前距腓靭帯、前脛腓靭帯、踵腓靭帯、踵立方靭帯、腓骨筋腱、後脛骨筋腱)		
7	下腿	下腿のエコー描出(アキレス腱、fat pad、滑液包、腓腹筋)		
8	膝関節①	膝関節のエコー描出(MCL、LCL、MPFL、膝蓋腱滑走)		
9	膝関節②	膝関節のエコー描出(寛足部描出、半膜様筋、腓腹筋内側頭滑走、大腿四頭筋)		
10	肩関節	肩関節のエコー描出(上腕二頭筋腱長頭、肩甲下筋、棘上筋、棘下筋)		
11	肘関節①	肘関節のエコー描出(MCL(AOL、ストレス計測)、外側上顆、ECD、ECRB)		
12	肘関節②	肘関節のエコー描出(離断性骨軟骨炎)		
13	手関節	手関節のエコー描出(側副靭帯、掌側板、A1 Pulley、伸筋腱)		
14	体幹	体幹のエコー描出(腹横筋、多裂筋)		
15	計測・まとめ	エコー(2画面描出・計測)、精密触診のまとめ・確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
面谷 透 編集、MEDICAL VIEW社 ゼロから始める 運動器エコーマスターへの100ステップ		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ救急法		理学療法科/2年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	山下祐輔(実務経験者)
授業の概要				
スポーツ現場で遭遇する可能性のある外傷や病気に対する救急法を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ現場で遭遇する可能性のある外傷や病気によって遭遇した際の基本的な対処法を実施できる。				
回	テーマ	内 容		
1	基礎知識①	身体の解剖と生理・スポーツ現場でのファーストエイド		
2	基礎知識②	AEDと心臓マッサージの基本的な方法		
3	事故防止と救護体制	事故防止の原則、外傷の発生、救護体制の原則		
4	突然死・心臓振盪	突然死・心臓振盪についての基礎知識と対応		
5	熱中症	熱中症についての基礎知識と対応		
6	低体温症・凍傷	低体温症・凍傷についての基礎知識と対応		
7	頭部外傷・脳震盪	頭部外傷・脳震盪に対する救急処置法・スポーツ復帰手順		
8	足関節捻挫	足関節捻挫に対する救急処置の方法		
9	膝靱帯損傷	膝靱帯損傷に対する救急処置の方法		
10	打撲・肉ばなれ	打撲・肉ばなれに対する救急処置の方法		
11	肩関節・肘関節脱臼	肩関節脱臼・肘関節脱臼に対する救急処置の方法		
12	呼吸器感染症	呼吸器感染症・ぜんそく・アレルギーの基礎知識と対応		
13	脊椎・脊髄の外傷	脊椎・脊髄の外傷に対する基礎知識と対応		
14	弾性包帯・テーピング	救急処置で用いる弾性包帯・テーピングの理論と適用方法について		
15	その他対応	溺水・高山病・顔面外傷・アナフィラキシーショック症状など		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		レポート課題	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ外傷学概論		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	選択	山下 祐輔（実務経験者）
授業の概要				
全身のスポーツ外傷の病因、疫学、受傷メカニズムについて概説する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷の病因、疫学、受傷メカニズムの概要を理解し、評価や治療法の学習を開始できる。				
回	テーマ	内 容		
1	スポーツ外傷学総論	スポーツ外傷とは？外傷と障害の違い。リハビリテーションとコンディショニングの考え方。		
2	四肢骨折	四肢骨折の病態・受傷機転		
3	疲労骨折	オーバーユースからくる疲労骨折のメカニズム		
4	肉離れ・筋挫傷	肉離れ、筋挫傷の病態・受傷メカニズム		
5	靱帯損傷①	足関節捻挫、アキレス腱損傷の病態・受傷メカニズム		
6	靱帯損傷②	膝関節・前十字靱帯損傷		
7	脱臼	肩関節脱臼、肘関節脱臼の病態・受傷メカニズム		
8	脳震盪・頭部外傷	脳震盪、頭部外傷の病態・受傷メカニズム		
9	絞扼障害	胸郭出口症候群の病態・受傷メカニズム		
10	脊椎・腰部障害	腰椎分離症、腰椎椎間板ヘルニアの病態・受傷メカニズム		
11	股関節障害	グロウインペインの病態・受傷メカニズム		
12	炎症・軟骨障害	半月板損傷、タナ障害、足底腱膜炎		
13	成長期の障害	オスグットシュラッター病、シーバー病		
14	手指・手関節疾患	突き指・TFCC		
15	まとめ・練習問題	スポーツ医学検定練習問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		レポート課題	100.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ外傷治療学		理学療法科/3年	2025/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	山下 祐輔 (実務経験者)
授 業 の 概 要				
・各スポーツ外傷の疫学・治療に必要な評価・スポーツ競技特性・リハビリテーションについて学習する。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
・全身のスポーツ外傷の病因・症状・評価・治療法・リハビリテーションの概要を理解し、評価や治療法の実技ができる。 ・症例に応じた治療プログラムの立案ができる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	スポーツ外傷治療学総論	オリエンテーション 講義の目的、内容について説明		
2	スポーツ外傷における評価	スポーツ外傷治療に必要な評価		
3	腰椎のスポーツ外傷	ヘルニア・腰椎分離症のリハビリテーション		
4	骨盤周囲のスポーツ外傷	ハムストリングス肉離れのリハビリテーション		
5	膝関節のスポーツ外傷①	前十字靱帯・半月板損傷のリハビリテーション		
6	膝関節のスポーツ外傷②	ジャンパー膝のリハビリテーション		
7	足関節のスポーツ外傷①	前距腓靱帯損傷・シンスプリントのリハビリテーション		
8	足関節のスポーツ外傷②	アキレス腱損傷・Jones骨折のリハビリテーション		
9	股関節のスポーツ外傷	グロウインペインのリハビリテーション		
10	肩関節のスポーツ外傷	肩関節脱臼・野球肩のリハビリテーション		
11	肘関節・手関節のスポーツ外傷	テニス肘、TFCC損傷・手指骨骨折のリハビリテーション		
12	頭・頸部のスポーツ外傷	脳振盪・頭・頸部外傷のリハビリテーション		
13	症例検討	症例情報を通し、評価・目標設定・治療プログラムの立案について学ぶ		
14	症例検討	症例情報を通し、評価・目標設定・治療プログラムの立案について学ぶ		
15	症例検討	症例情報を通し、評価・目標設定・治療プログラムの立案について学ぶ		
※書・教材 配布資料		評価基準	評価率	その他
		授業内課題	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
テーピング・補装具実技		理学療法科／3年	2025／前期	実技
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	選択	山下・他 （実務経験者）
授業の概要				
全身のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具の適用法を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷に対するテーピング・補装具をアスリートに適用できるようになる。				
回	テーマ	内容		
1	テーピング・補装具総論	テーピング・補装具の目的、適応、リスク、禁忌、実施方法を学習する。		
2	テーピングの基本	テーピングの基本技術を習得する。		
3	下肢のテーピング・補装具	下肢のテーピング・補装具実技を学習する。		
4	下肢のテーピング・補装具	下肢のテーピング・補装具実技を学習する。		
5	下肢のテーピング・補装具	体幹のテーピング・補装具実技を学習する。		
6	体幹のテーピング・補装具	体幹のテーピング・補装具実技を学習する。		
7	インソールの基本	インソールの基本について学習する。		
8	インソール作成に必要な評価	インソール作成に必要な評価について学習する。		
9	上肢のテーピング・補装具	上肢のテーピング・補装具の実技を学習する。		
10	上肢のテーピング・補装具	上肢のテーピング・補装具の実技を学習する。		
11	インソール作成に必要な評価②	インソール作成に必要な評価について学習する。		
12	インソール作成に必要な評価③	インソール作成に必要な評価について学習する。		
13	インソール作成実技①	インソール作成実技について学習する。		
14	インソール作成実技②	インソール作成実技について学習する。		
15	インソール作成実技③	インソール作成実技について学習する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		期末試験	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
アスレティック トレーニング座学		理学療法科/3年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	選択	山下祐輔、他(実務経験者)
授業の概要				
全身のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実際と理論を学習する。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習し、アスリートに対してスポーツ外傷・障害の予防から外傷・障害の対処や回復までを理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	総論	アスレティックトレーニングで用いる運動療法・トレーニング法の考え方を学習する。		
2	アスレチックリハビリテーション(体幹)	体幹のアスレチックリハビリテーションを学習する。		
3	アスレチックリハビリテーション(股関節)	股関節のアスレチックリハビリテーションを学習する。		
4	アスレチックリハビリテーション(膝関節)	膝関節のアスレチックリハビリテーションを学習する。		
5	アスレチックリハビリテーション(足関節)	足関節のアスレチックリハビリテーションを学習する。		
6	可動域と柔軟性(脊椎)	脊椎の可動域拡大のための運動療法を学習する。		
7	可動域と柔軟性(上肢)	上肢関節の可動域拡大のための運動療法を学習する。		
8	可動域と柔軟性(下肢)	下肢関節の可動域拡大のための運動療法を学習する。		
9	スタビライズトレーニング(脊椎・体幹)	体幹の筋機能改善、筋力増強のための運動療法を学習する。		
10	スタビライズトレーニング(上肢)	上肢の筋機能改善、筋力増強のための運動療法を学習する。		
11	スタビライズトレーニング(下肢)	下肢の筋機能改善、筋力増強のための運動療法を学習する。		
12	コーディネートトレーニング1	動作修正のためのコーディネート・トレーニングを学習する。		
13	コーディネートトレーニング2	動作修正のためのコーディネート・トレーニングを学習する。		
14	コーディネートトレーニング3	動作修正のためのコーディネート・トレーニングを学習する。		
15	コーディネートトレーニング4	動作修正のためのコーディネート・トレーニングを学習する。		
参考・教材 資料配布		評価基準	評価率	その他
		出席	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
アスレティック リハビリテーション実技		理学療法科／4年	2025／後期	講義・実技演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	選択	山下祐輔、他（実務経験者）
授業の概要				
全身のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実際を学習する。 現場で活躍しているトレーナーの仕事を学習する。 富山グラウジーズの試合参加、スポーツ健診のサポートなどのイベントに参加する 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
全身のスポーツ外傷のアスレティックリハビリテーションの実技を学習し、アスリートに対してスポーツ外傷・障害の予防から外傷・障害の対処や回復までを理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	アスレティックリハビリテーション総論	アスレティックリハビリテーションの目的、範囲、内容について学習する。		
2	アスレティックリハビリテーションの具体例 1	トレーナーのトレーニングの実際		
3	アスレティックリハビリテーションの具体例 2	トレーナーのトレーニングの実際		
4	アスレティックリハビリテーションの具体例 3	トレーナーのトレーニングの実際		
5	アスレティックリハビリテーションの具体例 4	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
6	アスレティックリハビリテーションの具体例 5	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
7	アスレティックリハビリテーションの具体例 6	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
8	アスレティックリハビリテーションの具体例 7	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
9	アスレティックリハビリテーションの具体例 8	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
10	アスレティックリハビリテーションの具体例 9	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
11	アスレティックリハビリテーションの具体例 10	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
12	アスレティックリハビリテーションの具体例 11	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
13	アスレティックリハビリテーションの具体例 12	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
14	アスレティックリハビリテーションの具体例 13	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
15	アスレティックリハビリテーションの具体例 14	スポーツ試合やスポーツ健診の参加		
図書・教材 配布資料		評価基準	評価率	その他
		課題レポート	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ障害評価学 基礎		理学療法科／1年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	選択	山下、他（実務経験者）
授 業 の 概 要				
スポーツ現場での理学療法士に必要な基本的な評価法について概説する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ障害の基本的な評価法について学修を開始できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	スポーツ障害評価学総論	スポーツ障害疾患に対する評価の目的、範囲、内容について学修する。		
2	評価法の基礎	評価の基礎的な手順と考え方、実施法を学修する。		
3	体表解剖・触診①	下肢の体表解剖・触診基礎技術を学修する。		
4	体表解剖・触診②	下肢の体表解剖・触診基礎技術を学修する。		
5	体表解剖・触診③	上肢の体表解剖・触診基礎技術を学修する。		
6	体表解剖・触診④	上肢の体表解剖・触診基礎技術を学修する。		
7	体表解剖・触診⑤	頭部・体幹の体表解剖・触診基礎技術を学修する。		
8	体表解剖・触診⑥	頭部・体幹の体表解剖・触診基礎技術を学修する。		
9	姿勢アライメント評価	姿勢アライメント評価について学修する。		
10	バランス機能評価	バランス機能評価について学修する。		
11	フィジカルチェック①	スポーツ現場で行われているフィジカルチェックについて学修する		
12	フィジカルチェック②	スポーツ現場で行われているフィジカルチェックについて学修する		
13	超音波エコーの基礎技術①	超音波エコーの基礎技術について学修する。		
14	超音波エコーの基礎技術②	超音波エコーの基礎技術について学修する。		
15	まとめ	スポーツ障害評価のまとめ・確認		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		授業内課題	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
スポーツ探求演習Ⅰ		理学療法科／1年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	選択	山下、他（実務経験者）
授業の概要				
本演習は、スポーツと理学療法の関連性を理解し、スポーツ現場での理学療法士の基本的な役割について概説する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツと理学療法の関連性を理解し、説明できる。 スポーツ現場における理学療法士の基本的な役割を理解する。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	スポーツ探求演習の目的、範囲、内容について学修する。		
2	スポーツ医学概論	スポーツ医学の基礎、スポーツ傷害の分類について学修する。		
3	スポーツ外傷の基礎	急性外傷の種類、メカニズム、基本的な対処法について学修する。		
4	スポーツ障害の基礎	慢性障害の種類、発生メカニズム、予防法について学修する。		
5	スポーツ外傷・障害の予防	予防プログラムの基礎、ストレッチングとウォームアップについて学修する。		
6	コンディショニングの基礎	基本的なコンディショニング技法について学修する。		
7	テーピング技術の基礎	代表的な部位のテーピングについて学修する。		
8	スポーツ栄養学の基礎	スポーツと栄養の関係、基本的な栄養管理について学修する。		
9	スポーツ心理学の基礎	スポーツ心理学の概念、基本技法について学修する。		
10	ケーススタディ	簡単な症例を用いた評価計画の立案		
11	フィールドワーク スポーツイベントでの実践①	地域スポーツイベントでのサポート活動（実地研修）		
12	フィールドワーク スポーツイベントでの実践②	地域スポーツイベントでのサポート活動（実地研修）		
13	フィールドワーク スポーツイベントでの実践③	地域スポーツイベントでのサポート活動（実地研修）		
14	フィールドワーク スポーツイベントでの実践④	地域スポーツイベントでのサポート活動（実地研修）		
15	フィールドワーク スポーツイベントでの実践⑤	地域スポーツイベントでのサポート活動（実地研修）		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		授業内課題	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
スポーツ理学療法学		理学療法科/2年	2025/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位(30時間)	必須	山下祐輔(実務経験有)
授業の概要				
スポーツ動作の特徴・スポーツ障害・外傷の病態・評価など治療アプローチに必要な基本的な知識と技術を学習する 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
スポーツ動作の特徴 スポーツ障害・外傷の病態 理学療法に必要な評価 治療アプローチを理解・説明できる				
回	テーマ	内 容		
1	スポーツ理学療法総論	講義の目的、内容について学習する。		
2	スポーツ疾患の評価法①	スポーツ疾患の評価法・実技について学習する		
3	スポーツ疾患の評価法②	スポーツ疾患の評価法・実技について学習する		
4	スポーツによる外傷とその対処法	スポーツによる外傷の病態・評価・対処方について学習する		
5	スポーツによる内科的障害とその対処法	スポーツによる内科的障害の病態・評価・対処方について学習する		
6	障害予防とコンディショニング	スポーツ障害予防とコンディショニングについて学習する		
7	スポーツ動作のバイオメカニクス	走動作・ジャンプ・着地・切り返しなど、スポーツ動作の特徴について学習する。		
8	股関節・大腿のスポーツ理学療法	股関節・大腿スポーツ障害の病態・評価・理学療法について学習する		
9	膝のスポーツ理学療法	膝スポーツ障害の病態・評価・理学療法について学習する		
10	腰部のスポーツ理学療法	腰部スポーツ障害の病態・評価・理学療法について学習する		
11	肩・肘関節のスポーツ理学療法	肩・肘関節スポーツ障害の病態・評価・理学療法について学習する		
12	足・足部のスポーツ理学療法	足・足部スポーツ障害の病態・評価・理学療法について学習する		
13	パラスポーツ (障がい者スポーツ)	パラスポーツの特徴・リスク管理・病態・評価・理学療法について学習する		
14	まとめ・発表	グループ発表		
15	まとめ・発表	グループ発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト スポーツ理学療法学		授業内態度・小テスト 発表	50.0% 50.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療計画法		理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	山本政孝（実務経験有り）
授業の概要				
リハビリテーション計画の作成に必要な、理学療法評価項目の立案、評価結果の解釈、ICFでの問題点の整理・問題点の抽出、目標設定、治療プログラムの立案までの一連の流れについて、座学、実技、アクティブラーニング、グループワークを通して学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
・診療記録の記載がSOAP形式でまとめることができる。 ・理学療法評価結果の解釈ができ、ICFで整理して、目標設定や治療プログラムを選択するという一連の流れを理解する。 ・機能的帰結の予測について調べることができる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション	理学療法における理学療法評価から治療プログラム立案までの一連の流れについて		
2	診療記録の書き方①	診療記録の目的、書き方、SOAPの記録方法について		
3	診療記録の書き方②	診療記録の目的、書き方、SOAPの記録方法について		
4	リスク管理①	リスク管理の目的、医療事故、感染対策、インシデントレポート、疾患毎のリスク管理について		
5	リスク管理②	リスク管理の目的、医療事故、感染対策、インシデントレポート、疾患毎のリスク管理について		
6	理学療法評価①	理学療法評価の目的、評価結果の解釈について		
7	理学療法評価②	理学療法評価の目的、評価結果の解釈について		
8	理学療法評価③	理学療法評価の目的、評価結果の解釈について		
9	理学療法評価④	理学療法評価の目的、評価結果の解釈について		
10	予後予測①	予後予測の目的、予後予測の方法、機能的帰結の予測について調べる		
11	予後予測②	予後予測の目的、予後予測の方法、機能的帰結の予測について調べる		
12	ICF①	理学療法評価を元にICFで問題点を抽出する		
13	ICF②	理学療法評価を元にICFで問題点を抽出する		
14	目標設定・治療プログラムの立案①	理学療法における目標設定、治療プログラムの立案について		
15	目標設定・治療プログラムの立案②	理学療法における目標設定、治療プログラムの立案について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題・レポート	100.0%	

科目名		学年/学年	年度/期	授業形態
理学療法講習Ⅰ		理学療法科/3年	2025/前期	授業・演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位(60)	必須	井八義治(実務経験有)
授業の概要				
■本講義では後期からの臨床実習への参加を想定し、実習前に備えておくべき基本的態度や技能の習得を旨とする。学生は常に臨床実習を想定し、実習生として適切な身だしなみや振舞いをとり、積極的に授業に参加することを求める。教科書の内容や教員を模倣できるように学生同士で確認しながら練習を進めていく。【前期開講】前期必修				
授業終了時の到達目標				
■臨床実習前に必要となる基本的態度・技能を習得できる ・理学療法科の実習生としてふさわしい身だしなみや振舞いを実践できる ・標準的な評価・測定および治療技術を授業内で見学・模倣できる ・自身の課題や長所を整理し改善に向けて必要な対応を立案できる				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション Lv1_標準手技演習(スタンダードプロ セッション)・リスク管理	シラバス紹介、グループ分け、授業内ルール確認、授業実習・評価の概 略、Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説実技練習(グ ループワーク)		
2	Lv1_標準手技演習(スタンダードプロ セッション)・リスク管理	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
3	Lv1_コミュニケーション技法	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
4	Lv1_コミュニケーション技法	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
5	Lv1_上肢管理(三角巾の装着)	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
6	Lv1_上肢管理(三角巾の装着)	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
7	Lv1_下肢装具の装着介助	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
8	Lv1_下肢装具の装着介助	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
9	Lv1_車椅子移動介助	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
10	Lv1_車椅子移動介助	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
11	Lv1_移乗介助	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
12	Lv1_移乗介助	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
13	Lv2_関節可動域測定	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
14	Lv2_関節可動域測定	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
15	Lv2_関節可動域測定	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
16	Lv2_関節可動域測定	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
17	Lv2_筋力測定	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
18	Lv2_筋力測定	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
19	Lv2_形態測定	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
20	Lv2_形態測定	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
21	Lv2_感覚検査	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
22	Lv2_感覚検査	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
23	Lv2_反射検査	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
24	Lv2_反射検査	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
25	Lv2_肩甲骨の痙攣側運動機能評価	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
26	Lv2_肩甲骨の痙攣側運動機能評価	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
27	Lv2_運動失調検査	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
28	Lv2_運動失調検査	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
29	Lv2_立位バランス評価	Web動画の視聴、教員のデモンストレーション・解説 実技練習(グループワーク)		
30	Lv2_立位バランス評価	実技練習(グループワーク)・模倣試験		
教科書・教材		評価基準	評価法	その他
■PT・OTのための臨床評価とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版改訂版 ■PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版		期末試験	100/0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
理学療法演習Ⅱ		理学療法科/2年	2025/後期	講義・実習
授業時間	回数	単位数(各授業)	必要単位数	担当教員
90分	30回	2単位(90)	必須	竹中、中島、中島、他(東海大学)
授業の概要				
実習に必要な基本的知識や技術、疾患別理学療法の考え方、リスク管理、感染管理について、復習も兼ねて講義と実習演習、グループワークなどを行う。 【実習経験】病院勤務				
授業終了後の到達目標				
・トランスファー知識と技術を獲得できる ・疾患別理学療法の考え方が習得できる ・評価法、SOAP、記録の書き方を習得できる ・病態のリスク管理、感染管理の知識を習得できる				
序	テーマ	内 容		
1	総論 1	臨床実習における姿勢、考え方、注意事項		
2	総論 2	臨床実習における姿勢、考え方、注意事項		
3	グループワーク 1	総論で学んだことをグループでディスカッションする		
4	グループワーク 2	総論で学んだことをグループでディスカッションする		
5	リスク管理 1	リスクをどのように考えるか		
6	リスク管理 2	急変時対応 急性期		
7	リスク管理 3	急変時対応 回復期		
8	リスク管理 4	急変時対応 外来・通所		
9	リスク管理 5	急変時対応 在宅		
10	基礎的知識 1	問診と触診		
11	基礎的知識 2	SOAPと記録の書き方		
12	基礎的知識 3	評価の正確性とスピード		
13	基礎的知識 4	クリニカルリーズニング		
14	基礎的知識 5	主訴から考えるチャート作成		
15	整形外科疾患の考え方 1	総論		
16	整形外科疾患の考え方 2	各論1 事例検討とリスク管理		
17	整形外科疾患の考え方 3	各論2 事例検討とリスク管理		
18	整形外科疾患の考え方 4	各論3 事例検討とリスク管理		
19	整形外科疾患の考え方 5	各論4 事例検討とリスク管理		
20	整形外科疾患の考え方 6	各論5 事例検討とリスク管理 動作分析		
21	整形外科疾患の考え方 7	まとめ 統合と解釈 確認テスト		
22	脳血管障害の考え方 1	事例検討とリスク管理 1		
23	脳血管障害の考え方 2	事例検討とリスク管理 2		
24	脳血管障害の考え方 3	事例検討とリスク管理 3		
25	脳血管障害の考え方 4	事例検討とリスク管理 4		
26	脳血管障害の考え方 5	事例検討とリスク管理 5 歩行分析、転倒予防		
27	脳血管障害の考え方 6	まとめ 統合と解釈 確認テスト		
28	感染管理 1	感染性の考え方 スタンダードプリコーション		
29	感染管理 2	新型コロナウイルス感染症への対応		
30	感染管理 3	手洗い、手指消毒、清掃方法 確認テスト		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		講義・レポート 確認テスト	50.0% 50.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域理学療法論Ⅰ（総論）		理学療法科/1年	2025/後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	西潟 央（実務経験有）
授業の概要				
リハビリテーションの理念を基に、地域リハビリテーションサービスについての理解を深め、理学療法の役割や考え方、方法を学ぶ。地域におけるサービス（通所、訪問、健康教室など）についても学ぶ。				
【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 地域リハビリテーションの概念、理学療法士と他職種の連携の重要性を理解する。 2. 地域リハビリテーション、在宅・訪問・通所など、病院以外での理学療法士の関わりについて理解する。 3. 臨床実習を経験した学年からの経験談や経験値を聞いて理解を深める。				
回	テーマ	内 容		
1	地域包括ケアシステムとは？	4年生と合同でのグループワーク・発表		
2	介護保険制度とは？	4年生と合同でのグループワーク・発表		
3	地域理学療法とは？	4年生と合同でのグループワーク・発表		
4	地域リハビリテーションの概念	地域リハビリテーションの定義、活動指針		
5	介護保険制度とケアマネジメント	要介護・要支援とサービス		
6	地域リハビリテーションをめぐる諸制度	地域リハビリテーションをめぐる諸制度		
7	医療・保健・福祉の連携の意義と方法	医療・保健・福祉の連携の意義と方法		
8	地域包括支援センターの役割	地域包括ケアシステムと包括支援センター		
9	施設、通所リハビリテーションの意義と方法	施設、通所リハビリテーションの意義と方法		
10	訪問リハビリテーションの意義と方法	訪問リハビリテーションの意義と方法		
11	精神・発達障害領域における地域リハビリテーションサービス	精神・発達障害領域における地域リハビリテーションサービス		
12	障がい者の就労支援と理学療法	障がい者の就労支援と理学療法		
13	介護予防における理学療法士の役割	介護予防における理学療法士の役割		
14	地域理学療法の目的、評価、目標、計画	地域理学療法の目的、評価、目標、計画		
15	地域理学療法における指導の考え方	地域理学療法における指導の考え方 国際保健とCBR、地域における社会資源		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
■標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学（第4版） 医学書院		期末試験 課題	80.0% 20.0%	

科 目 名		学科/学年	年度/時期	授業形態
地域福祉学Ⅱ (各論)		福祉学専攻/2年	2025/前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位 (90時間)	必須	西田 文 (実務経験有)
授業の概要				
地域福祉学Ⅱで学習した内容を基に、地域リハビリテーションにおける福祉士としての役割や考え方、介入方法について、グループワークや応用検討などを通して理解を深める。 【実務経験】 病院勤務				
授業終了後の到達目標				
・地域における職種や福祉士の役割、制度、サービス等について理解し、学習した内容について、口頭発表やレポート作成において説明することができる。 ・地域リハビリテーションに関連するテーマについて、これまで学習した知識や考え方を基に自身の考えを意見交換できる。				
回	テーマ	内 容		
1	オリエンテーション授業	シラバス、ワーク概要説明・試験等について 地域福祉学Ⅱ復習テスト		
2	介護老人保健施設とは	施設紹介など		
3	介護老人保健施設のリハビリ1	通所のリハビリについて		
4	介護老人保健施設のリハビリ2	通所のリハビリについて		
5	介護老人保健施設のリハビリ3	入所・施設での終末期について		
6	介護老人保健施設の連携1	通所における職種とその連携		
7	介護老人保健施設の連携1	通所における職種とその連携 グループワーク・課題レポート		
8	介護老人保健施設の連携2	入所における職種とその連携		
9	介護老人保健施設の連携2	入所における職種とその連携		
10	介護老人保健施設の連携3	地域の中の役割と連携		
11	介護老人保健施設の連携3	地域の中の役割と連携		
12	介護老人保健施設のリハ 事例	事例を考える		
13	グループワーク課題	グループワーク		
14	グループワーク課題	グループワーク		
15	課題のプレゼンテーション	プレゼンテーション前半		
16	課題のプレゼンテーション	プレゼンテーション後半		
17	地域を考える1	介護保険制度・地域包括ケアシステム 事例 グループワーク		
18	地域を考える2	介護保険制度・地域包括ケアシステム 事例 グループワーク		
19	認知症	認知症の方への援助を考えます		
20	在宅医療が必要な事例	在宅医療が必要な事例を考えます		
21	在宅医療と訪問リハ	地域包括支援センターの仕事をご紹介します		
22	健康寿命とロコモティブシンドローム 在宅医療など	ロコモティブシンドロームなどを演習します		
23	地域を元気にするためには ①	地域の方々、子供から高齢者までに福祉法の知識で元気にさせるためには		
24	地域を元気にするためには ②	地域の方々、子供から高齢者までに福祉法の知識で元気にさせるためには		
25	予防を考える ①	介護予防（高齢者）とケガ（中学生） グループワーク・プレゼンテーション		
26	予防を考える ②	介護予防（高齢者）とケガ（中学生） グループワーク・プレゼンテーション		
27	予防を考える ③	介護予防（高齢者）とケガ（中学生） グループワーク・プレゼンテーション		
28	予防を考える ④	介護予防（高齢者）とケガ（中学生） グループワーク・プレゼンテーション		
29	地域福祉学Ⅱに必要な知識	介護保険制度・地域包括ケアシステム 予防事業などこれまで学習したことを復習します。国試の仕組みも紹介します。		
30	まとめ	確認テストと課題レポート		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
標準福祉学Ⅱ 地域福祉学Ⅱ(各論) 法学専攻		レポート課題	40.0%	
(1年生で使用する教科書です。持参してください)		小テスト	20.0%	
		プレゼンテーション	30.0%	
		授業貢献	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅰ		理学療法科/1年	2025/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	
		1単位(40時間)	必須	竹中・牛丸・山本・小島・他(実務経験有)
授業の概要				
病院にて、見学実習を3日間行い、その前後に学校で2日分の課題を行う。 見学を通して以下のことを学習動機を確認する。①これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。②社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。③病院における理学療法部門の位置づけを理解する。④理学療法士の業務の内容を把握する。⑤患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。				
回	テーマ	内 容		
1		実習前学内実習(接遇、感染対策、事前学習など)		
2		令和8年3月中に40時間(5日間)学外で実習を行う。 感染拡大の場合は期間変更、実習中止になることがある。		
3				
4				
5				
6				
7		実習後学内実習(実習報告の作成)		
8		実習後学内実習(実習報告会)		
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床見学実習Ⅱ		理学療法科/2年	2025/前期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		1単位(40時間)	必須	牛丸・小島・山本・他(実務経験有)
授業の概要				
病院にて、見学実習を5日間行い、その前後に学内にて対策授業、発表等を行う。 見学を通して以下のことを学習動機を確認する。②これまで学習したことの意義を理解し、今後の学習意欲の向上を行う。 ③社会人、医療従事者としての責任的行動の遂行を心掛ける。④病院における理学療法部門の位置づけを理解する。⑤理学療法士の業務の内容を把握する。⑥患者や利用者とのとの関わり方についてイメージを持つ。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
①病院のスケジュールに従って行動することができる。学生は施設の規則を遵守し、職員・患者に対する礼儀をわきまえ、見学担当者の指示に従うことができる。②職員・患者に対して社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い等)がとれる。③学生間や患者との不用意な会話は慎むことができる。また、患者について知り得た情報の守秘義務を守ることができる。				
回	テーマ	内 容		
		感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
		令和7年8月～9月の期間、5日間(40時間)学外施設にて実習を行う。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、デイリーノートの提出、出欠、実習態度、等により評定。	100.0%	

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法実習		理学療法科／4年	2025／前期	実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		1単位（40時間）	必須	山本、小島、竹中、他（実務経験有）
授業の概要				
実習の成果を踏まえ、地域理学療法の体験をすることで、理学療法士の役割に対して理解を深めることを目的とする。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
①通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を見学することができる。②通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法を一部経験することができる。③ケアプランの立案過程を見学することができる。				
回	テーマ	内 容		
1	令和7年4月15日～4月25日のうち40時間	前半・後半の2クールに分散して実習を行う		
2		感染症にて実習中止などの場合、期間変更とする場合がある。		
3				
4				
5				
6				
7				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習中の態度、デイリーノート、課題レポート、出欠、などを総合して判定する	100.0%	40時間の実習時間を設ける（1単位）

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		理学療法科／3年	2025／後期	実習（一部学内実習）
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
		4単位（160時間）	必須	竹中、牛丸、山本、他（実務経験有）
授業の概要				
臨床実習として、老人保健施設又は病院（現場）に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得をめざす。治療ができるための評価を経験できること。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で理学療法評価プロセスと基本的評価技術を系統的に経験し、理学療法評価一連の過程を理解・取得する。対象者にあった理学療法評価が行え、障害像の把握・問題点の抽出・目標設定が行えることを目標とする。また、医療従事者としての心構えや自覚を高める。				
回	テーマ	内 容		
1		2025年10月中旬より5週間（160時間）の実習の予定		
2		感染症拡大にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		出席記録	60.0%	
		ポートフォリオ	10.0%	
		評価表1	10.0%	
		OSCE	10.0%	
		CBT	10.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅱ		理学療法科/3年	2025/後期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		8単位(320時間)	必須	竹中、牛丸、山本、他(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習として病院に赴き、臨床場面を知り、臨床実習Ⅰで習得した基本的評価技術や理論がどのように実践でしようされているかを学ぶ。 また、治療の知識・技術がどのように行われているのかを臨床現場を通じて知る。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰで習得した理学療法の基本的評価技術や理論を対象者に応用することができ、問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。 また、自己の治療計画を実践することで治療技術を学び、専門職としての知識・技術の習得および自己研磨することを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1		2026年1月より8週間(320時間)の実習の予定		
2		感染症拡大にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		実習・実技評価 課題・レポート	50.0% 50.0%	実習、デイリー、 ケースノート、学 校での発表により 総合定期に成績を 判断する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
臨床実習Ⅲ		理学療法科/4年	2025/前期	実習(一部学内実習)
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
		8単位(320時間)	必須	小島、山本、竹中、他(実務経験有)
授業の概要				
臨床実習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、理学療法の評価から治療計画の立案、治療計画の実施、再評価の一連の流れを経験することで、知識と技術を習得することを目指す 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
実習指導者の直接監視下で学内教育や臨床実習Ⅰ・Ⅱで習得した技術や理論を対象者に応用することができ、自己の考えをもって問題点の抽出・目標設定・治療計画の立案が行えることを目標とする。また、実習指導者の指導の下、治療・指導を実施し、その効果判定を行い、治療の変更などが行えることを目標とする。				
回	テーマ	内 容		
1	令和7年5月7日～8月30日のうち320時間	前半・後半の2クールに分散して実習を行う		
2		感染症にて実習中止などの場合、期間変更もしくは学内実習とする場合がある。		
3				
4				
5				
6				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題レポート、ディリーノート、出欠、実習中の態度、症例報告会の発表などを総合的に判断する	100.0%	320時間の実習時間を設ける(8単位)